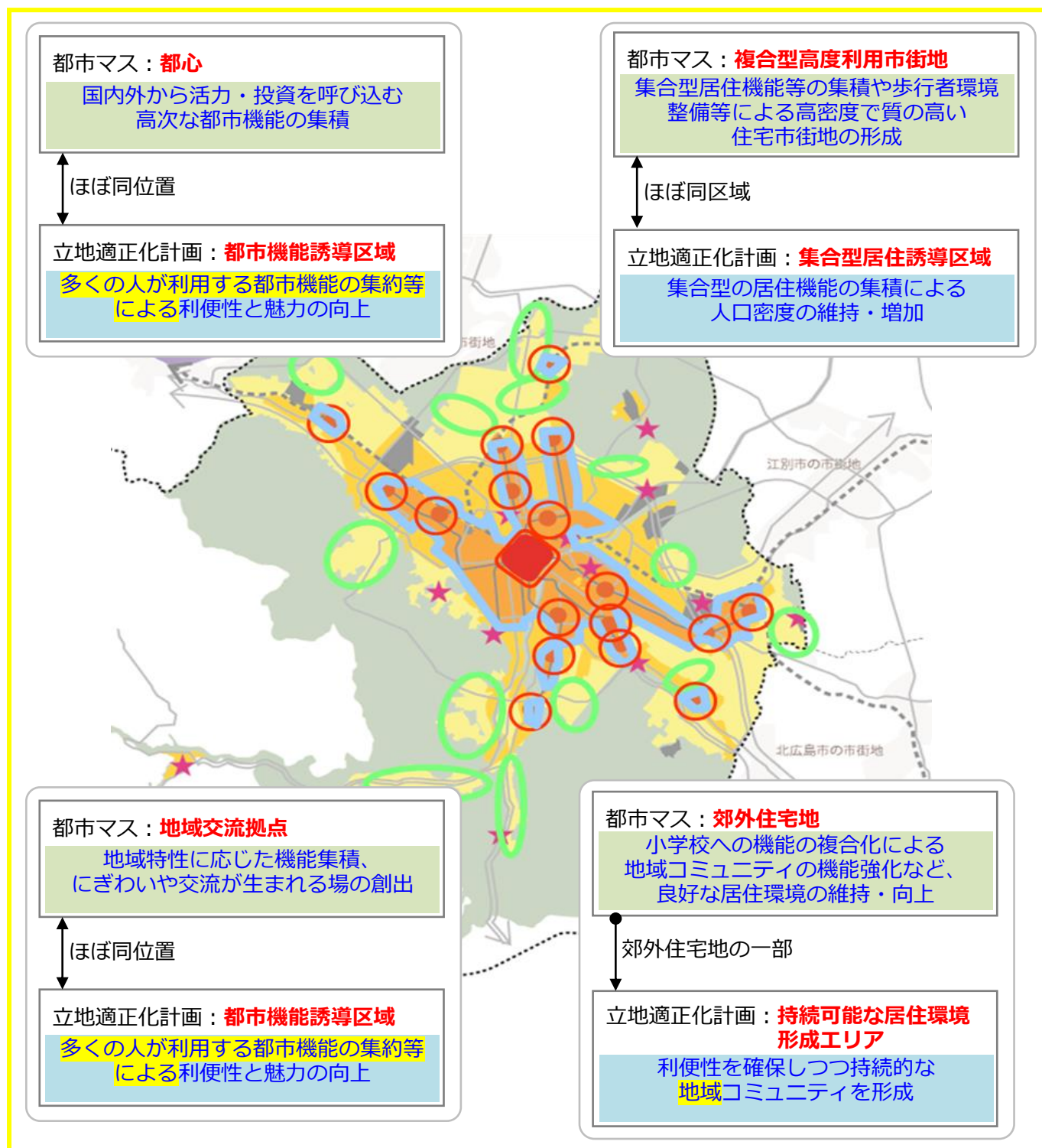




資料編

1 第2次札幌市都市計画マスタープランと札幌市立地適正化計画の関係



都市計画マスタープランの市街地区分

- 都心
- 地域交流拠点
- 高次機能交流拠点
- 複合型高度利用市街地
- 一般住宅地
- 郊外住宅地

立地適正化計画の区域区分

- 集合型居住誘導区域
- 都市機能誘導区域
- 持続可能な居住環境
形成エリア

2 策定の経緯

年 月	都市計画審議会	都市計画マスタープラン等見直し検討部会
平成 26 年（2014 年） 5 月	■検討部会設置の決定	【第 2 次札幌市都市計画マスタープランの検討】
6 月	■検討部会委員の承認	□第 1 回 ・前計画の概要 ・札幌市の現況・動向・課題 ・見直しの論点
7 月		□第 2 回 ・見直しの検討項目 ・今後の進め方
10 月		□第 3 回 ・都心、拠点、複合型高度利用市街地について
11 月	■現状報告	□第 4 回 ・郊外住宅地、一般住宅地、市街地の外について
12 月		□第 5 回 ・第 3 回の続き
平成 27 年（2015 年） 1 月		□第 6 回 ・第 4 回の続き
3 月		□第 7 回 ・中間とりまとめ
5 月		□第 8 回 ・骨子案（1）
6 月	■中間報告	□第 8 回 ・現状分析、居住誘導の考え方
7 月	■骨子案報告	□第 9 回 ・骨子案（2）
9 月	■素案報告（1）	□第 10 回 ・素案（1）
10 月		□第 11 回 ・素案（2）
11 月	■素案報告（2）	□第 12 回 ・計画案
12 月		□第 12 回 ・計画案
平成 28 年（2016 年） 1 月	■計画案報告	
2 月		□第 13 回 ・最終案
3 月	■最終案報告	□第 13 回 ・最終案

(参考) 札幌市都市計画マスタープラン等見直し検討部会 委員名簿

＜五十音順、敬称略、平成 28 年（2016 年）3 月 31 日現在＞

専攻・分野		氏名	職等
都市計画審議会委員	造園	あいこう てつや 愛甲 哲也	北海道大学大学院農学研究院 准教授
	交通計画	たかの しんえい 高野 伸栄	北海道大学大学院工学研究院 教授
	商工業	なかむら たつや 中村 達也	商工会議所 住宅・不動産部会 部会長
	経済	はまだ やすゆき 濱田 康行	公益財団法人はまなす財団 理事長

専攻・分野		氏名	職等
専門委員	都市計画	こばやし ひでつぐ 小林 英嗣 (部会長)	北海道大学名誉教授 一般社団法人都市・地域共創研究所 代表理事
	低炭素 都市づくり	むらき みき 村木 美貴	千葉大学大学院工学研究科 建築・都市科学専攻 教授

3 市民意見の反映にかかわる取組

本計画の策定にあたっては、市民が参加できる様々な機会を設けることにより、都市づくりに対する市民の意識・意向等を把握し、計画の方向性を検討するための参考としました。

いただいたご意見などは、可能な限り本計画に反映しています。

市 民 参 加 事 業	参加者数	概 要
市民アンケート (平成 26 年 9 月)	903 名	無作為に抽出した 3,000 名の市民を対象にアンケート調査を実施し、札幌での暮らしに対する評価やこれからのまちづくり、まちづくりの参加意向などについてご意見をいただきました。
子どもアンケート (平成 26 年 10 月)	1,363 名	市内の小学 3～6 年生を対象に、住みたい場所や将来の札幌のまちについてご意見をいただきました。
まちづくりワークショップ(第 1 回) (平成 26 年 12 月)	28 名	都心、地下鉄駅周辺、郊外住宅地といった、それぞれ特徴を持った市街地ごとに、魅力的なところ、改善すべきところなどについて話し合いました。
子ども議会 (平成 27 年 1 月)	65 名	「誰もが快適に暮らしやすいまちにするためには、どんなところにどんなものがあればいいか考えよう」という共通テーマについて子ども議員が議論し、市長等と今後の都市づくりなどについて意見交換しました。
これからの都市づくりを考える パネル展 (平成 27 年 7～8 月)	207 名 (市役所ロビー 見学者)	都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方について、市役所ロビーや区役所等でパネルの展示を行い、来場者からのご意見を募りました。
まちづくりワークショップ(第 2 回) (平成 27 年 8 月)	16 名	都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方についてご意見をいただきました。

3-1 市民アンケート

札幌市都市計画マスタープラン見直しに係る市民参加事業の一環として、主に居住環境やこれからの都市づくりのあり方について、より多くの市民の意識・意向を把握することを目的とし、アンケート調査を実施しました。

(1) 実施概要

①実施時期

平成 26 年 9 月 12 日（金曜日）～平成 26 年 9 月 30 日（火曜日）

※集計は、平成 26 年 11 月 26 日（水曜日）回収分までについて行いました。

②調査対象

札幌市民のうち、無作為抽出された 18 歳以上の男女 3,000 名

③調査方法

郵送により調査票を配布・回収

④回収結果

903 名（回収率 30.1%）

(2) 調査結果の概要

①札幌での暮らしについて

- ・居住環境に対しては、買い物・通院や交通などの「生活利便性」を最も重視しており、今後は利便性の高い地域へ住みたいという回答者が多い。
- ・一方で、郊外住宅地に住む回答者には、今後も一般・郊外住宅地での居住を望んでいる人が多い。
- ・居住環境に対しては、安全性を重視する回答者も多く、若い世代は「治安」、高齢者は「防災」を重視する傾向がみられる。
- ・約 8 割の回答者が、現在住んでいる場所に満足し住み続けることを望んでおり、約 1 割が、市内での移転を望んでいる。
- ・主な交通手段は、「自家用車」が最も多い。
- ・交通利便性の高い場所に移り住む場合には、約 8 割が、「公共交通の利用を心がける」と回答。
- ・「札幌らしい景観」とは、「山並みや河川、まちの眺望、緑豊かな街並み」であり、「公共建築物・公園・道路などの公共整備において、景観配慮が必要だ」という回答が多い。

②これからのまちづくりについて

- ・人口が減少するなかでの「市街地のあり方」について、約 6 割が「市街地を拡大しない」、約 3 割が「中長期的に狭める」と回答。
- ・「冬の快適な暮らし」、「災害に強いまち」、「省エネで環境に優しいまち」が今後望まれている。
- ・今後の取組として、地下鉄駅周辺などへの利便施設等の集積を求める回答が多い。

③まちづくりへの参加について

- ・まちづくり活動へ参加した経験がある回答者は約 3 割であり、高齢になるほど参加した経験がある人の割合が高い。
- ・今後は、アンケートの協力などにより参加したいという回答者が多い。

(3) 調査結果

【関1】あなた自身のことについてお聞きます。年齢、職業、家族構成、居住年数

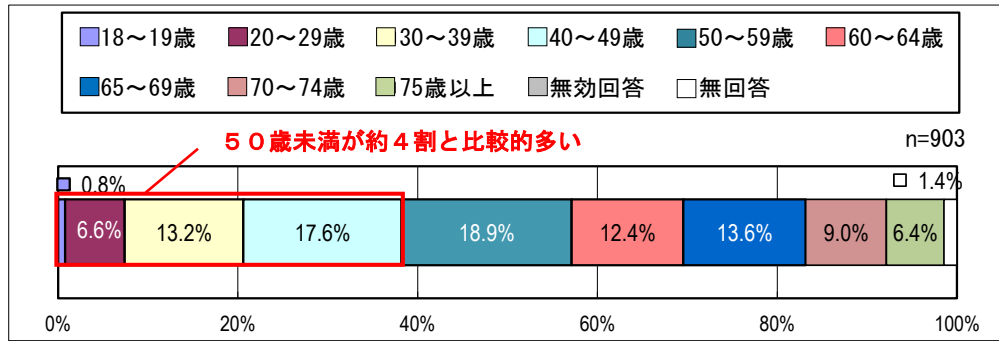


図 3-1-1 年齢

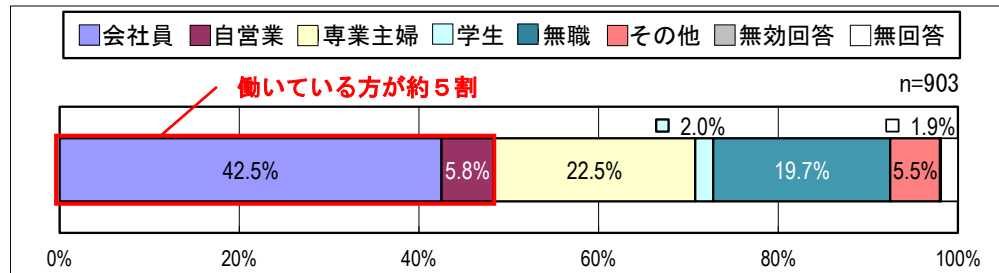


図 3-1-2 職業

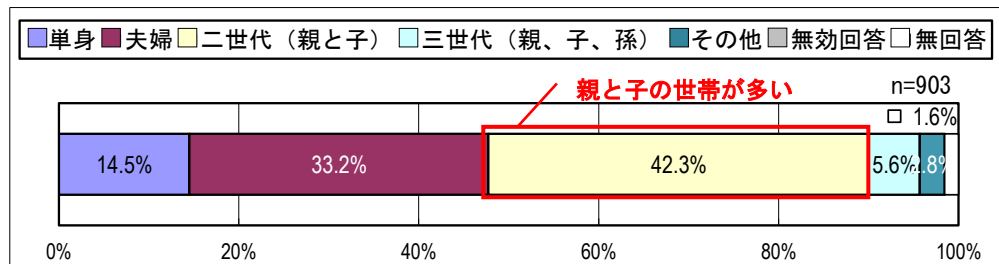


図 3-1-3 家族構成

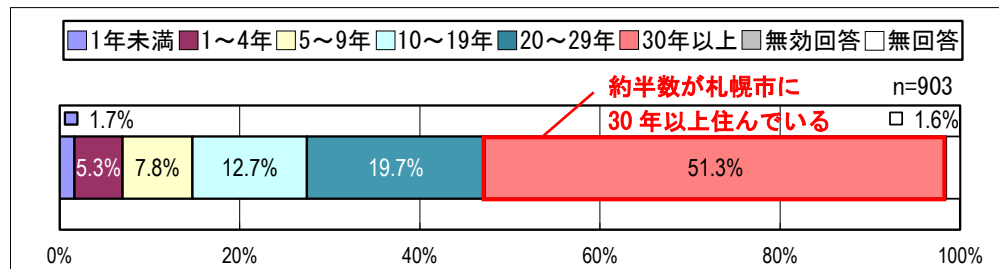


図 3-1-4 札幌市での居住年数

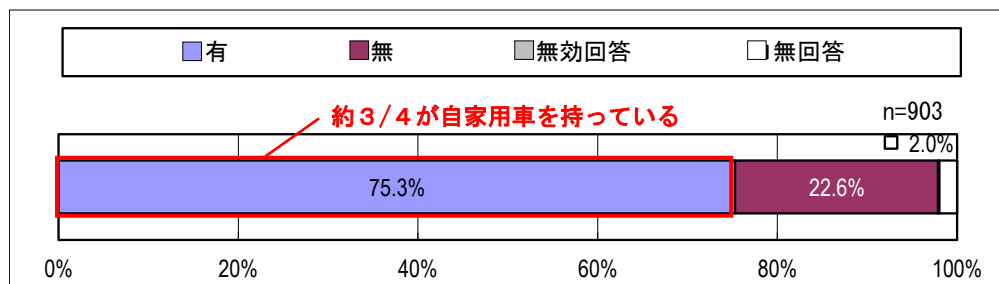


図 3-1-5 自家用車の有無

【問2】札幌市での暮らし（1）住まいや暮らしについて

Q1 居住環境として重要と考える項目はなんですか。

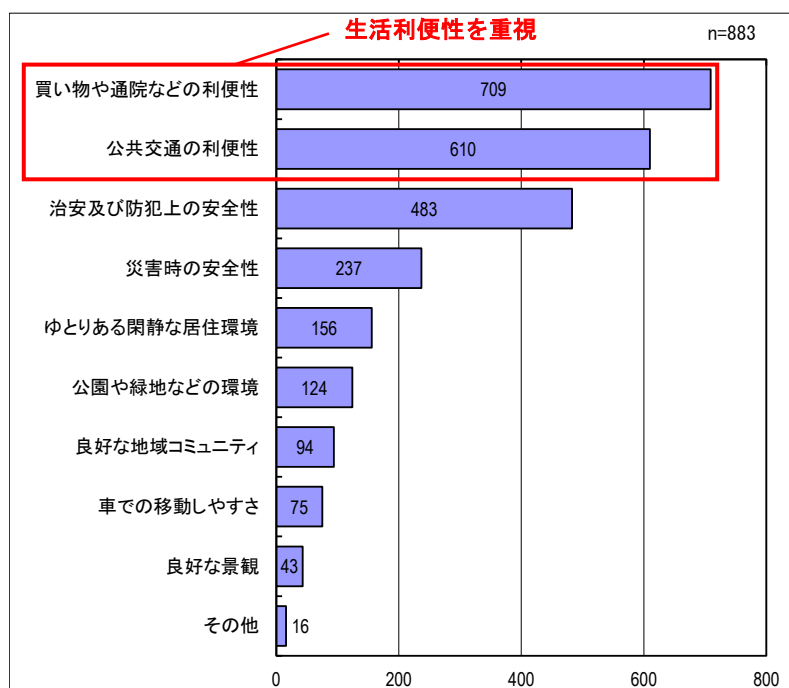


図3-1-6 居住環境として重要と考えること

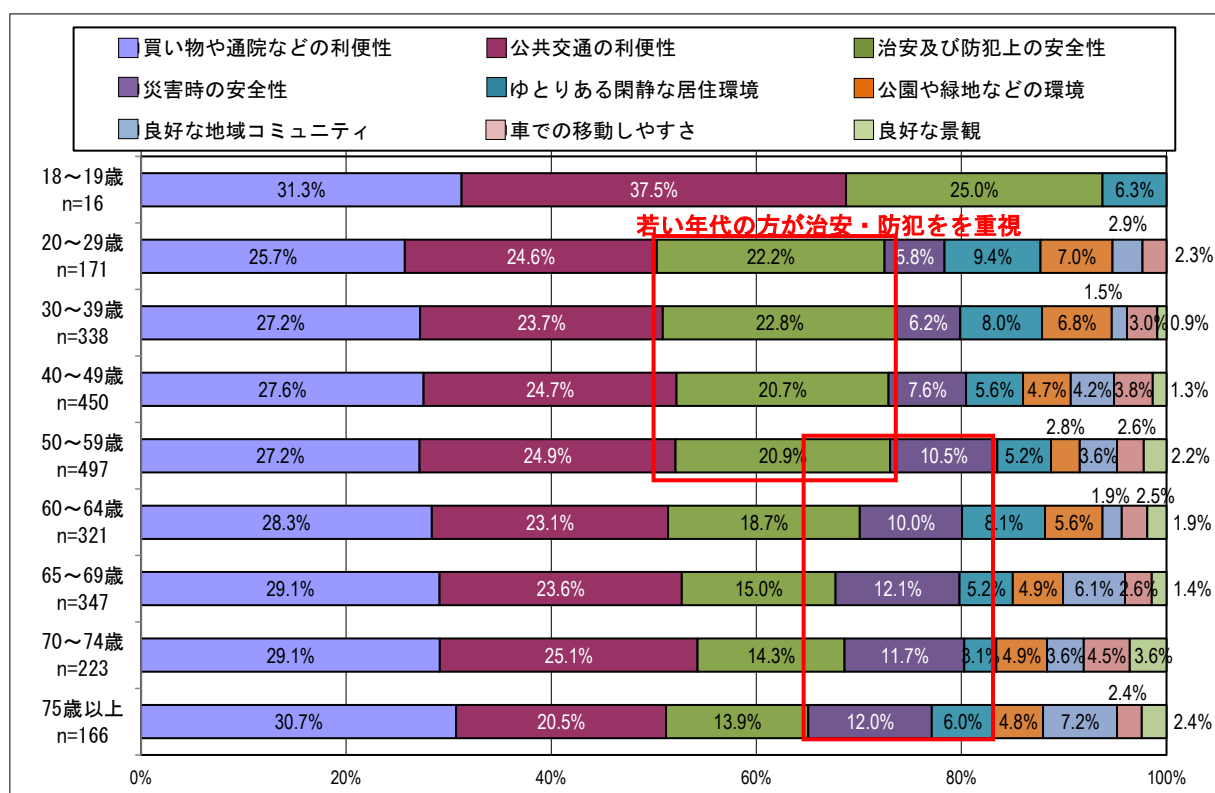


図3-1-7 居住環境として重要と考えること（年齢別）

高齢になるほど災害時の安全性を重視

【問2】札幌市での暮らし（1）住まいや暮らしについて

Q2 今後も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。

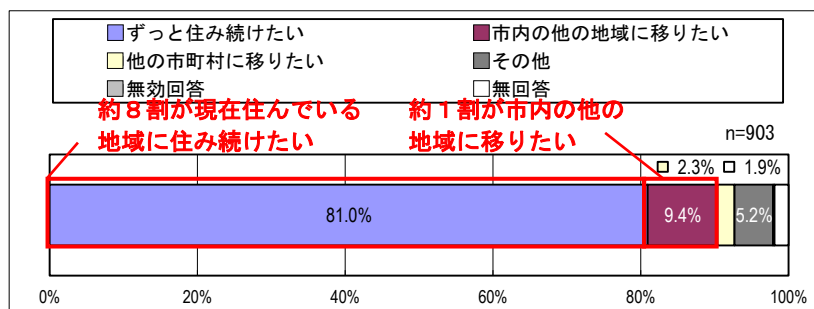


図3-1-8 今後も現在の住まいに住み続けたいか

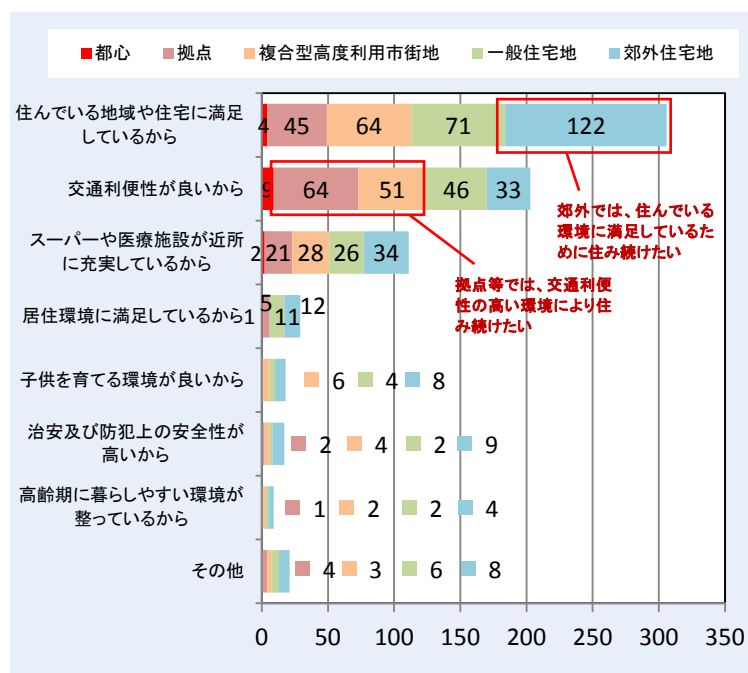
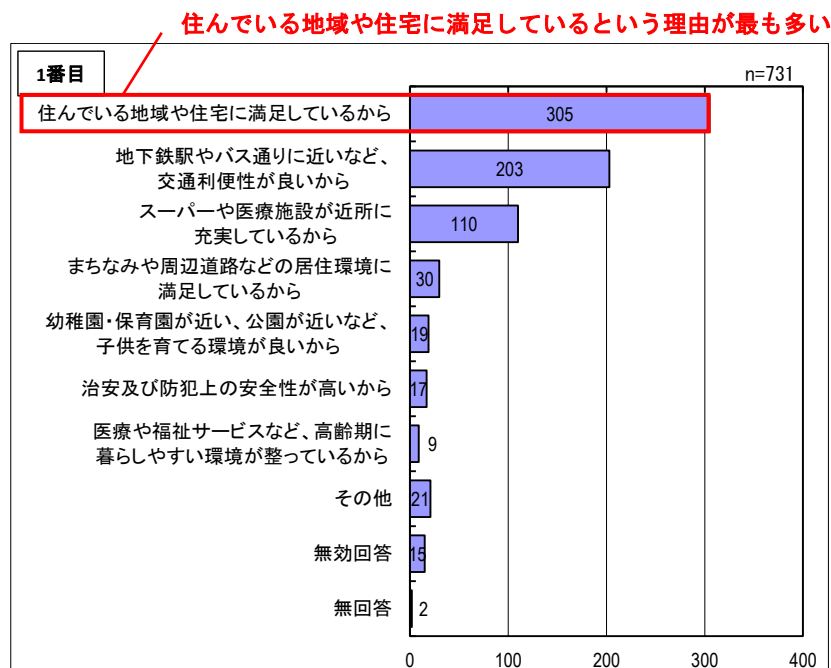


図3-1-10 住み続けたいと思う理由（市街地区別）

図3-1-9 住み続けたいと思う理由（1番目の理由）

【問2】札幌市での暮らし（1）住まいや暮らしについて

Q5 あなたが住みたいと思う場所は、どのような地域ですか。

利便性の高い環境で暮らしたい人が多い

車の有無にかかわらず利便性の高い地域に住みたい

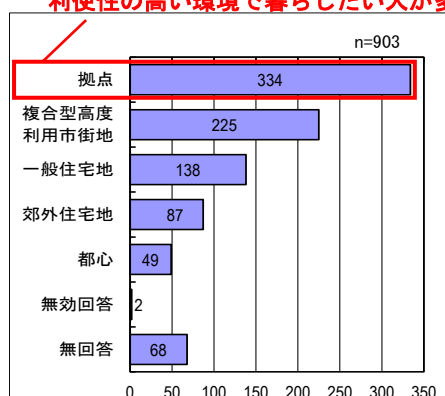


図3-1-1-1 住みたい場所

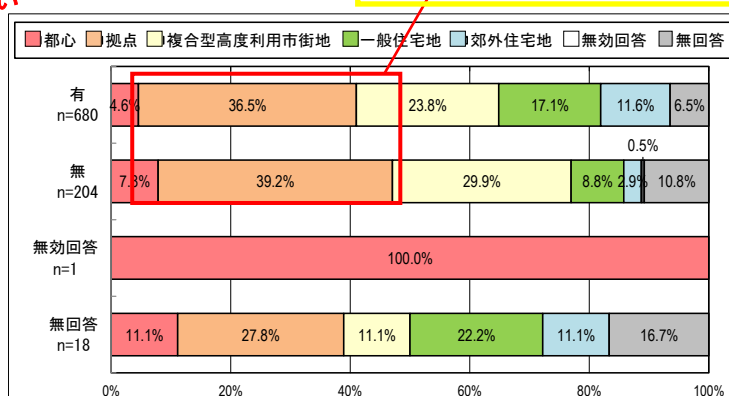


図3-1-1-2 住みたい場所（車の有無別）

【問2】札幌市での暮らし（2）交通手段について

Q1 現在、最も多く利用する交通手段は何ですか。

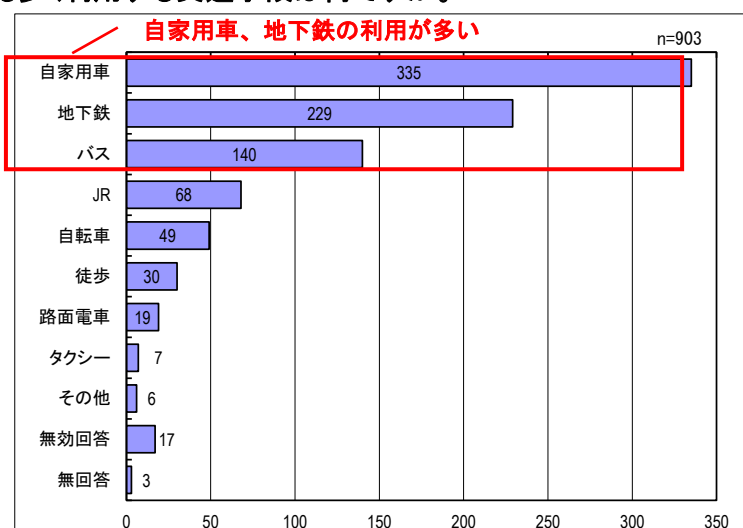


図3-1-1-3 多く利用する交通手段

Q2 都心、駅周辺などの公共交通の利便性の高い場所へ移り住んだ場合、移動手段についてどのように考えますか。

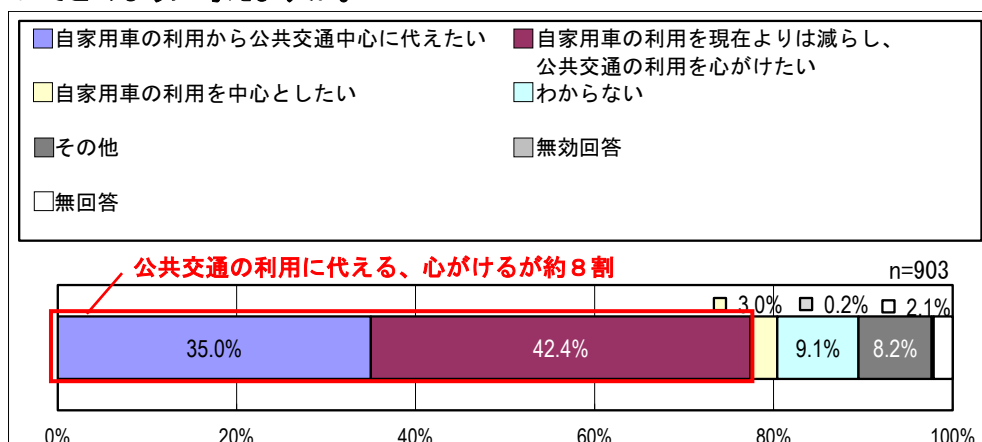


図3-1-1-4 利便性の高い場所へ移り住んだ場合の公共交通への転換意向

【問2】 札幌市での暮らし (3) まちの景観について

Q1 札幌市らしい魅力のある景観だと思うものは何ですか。

Q2 魅力ある景観を守り向上していくため、必要だと思う取組は何ですか。

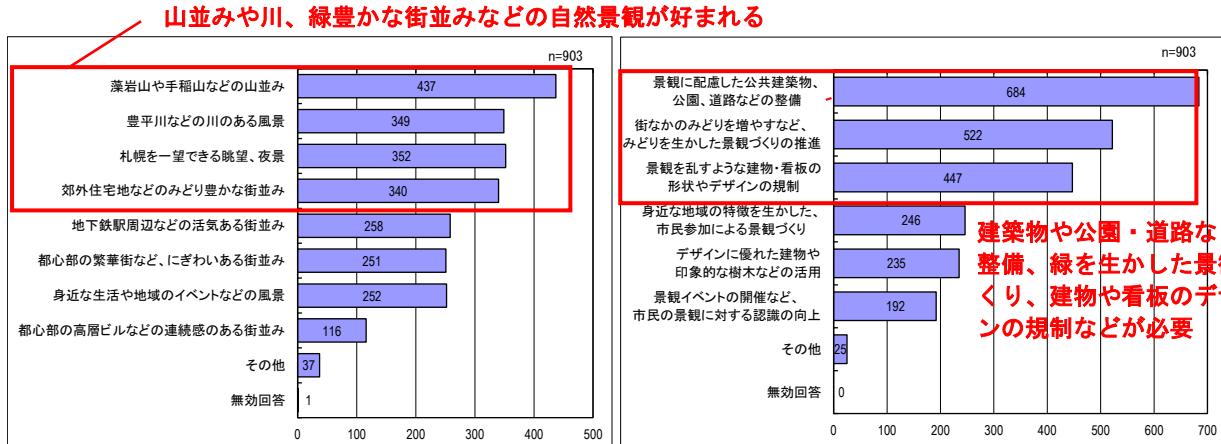


図 3-1-15 札幌らしい景観

図 3-1-16 景観形成に向けて必要な取組

【問3】 これからのまちづくりについて

Q1 今後の人口減少を想定した場合、市街地のあり方についてどのように考えますか。

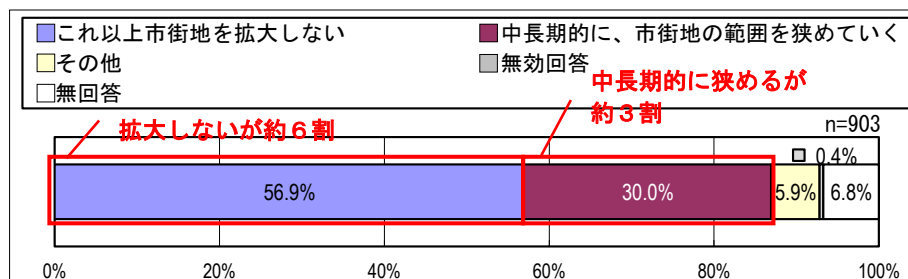


図 3-1-17 人口減少を想定した市街地のあり方

Q2 今後、札幌市はどのようなまちであってほしいと思いますか。

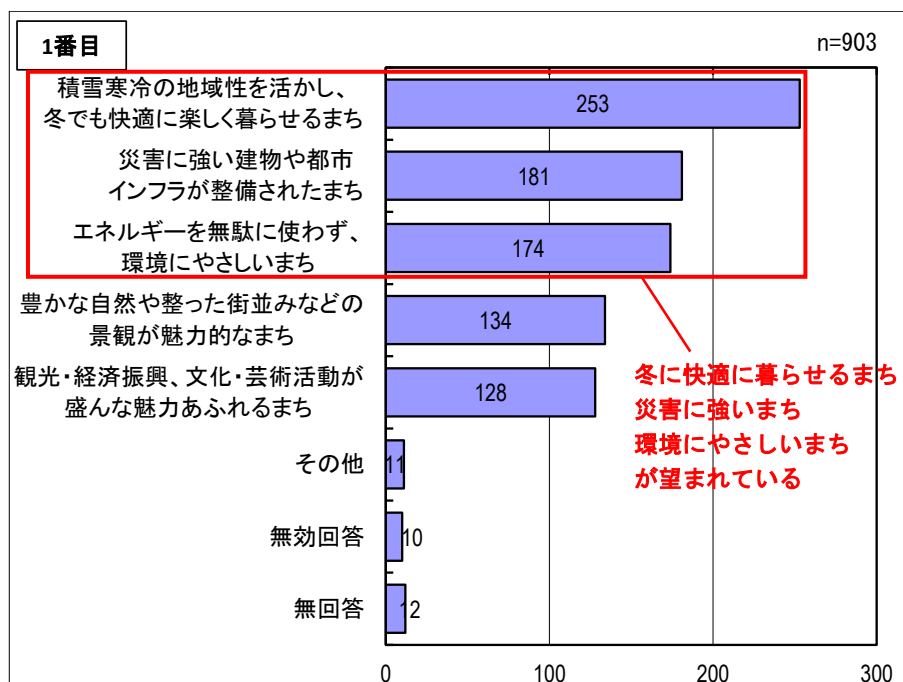


図 3-1-18 今後の札幌市について (1番目の選択)

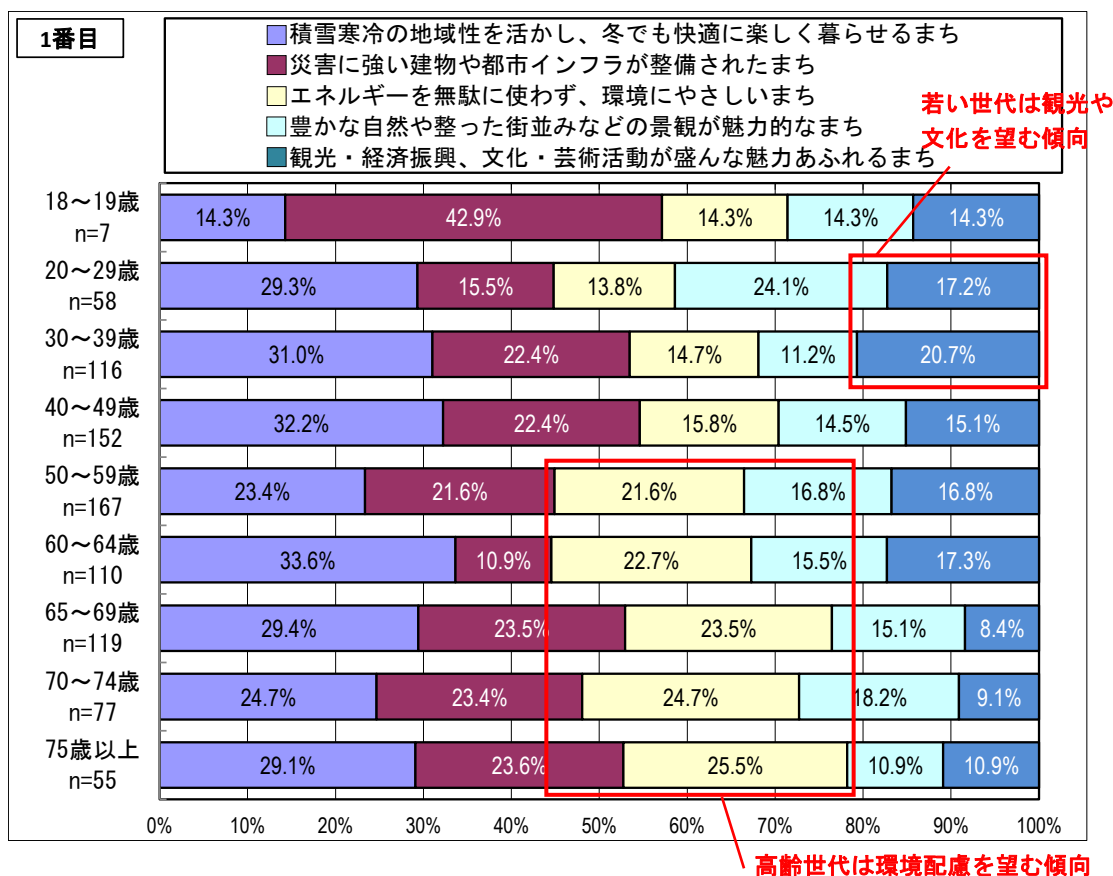


図3-1-19 今後の札幌市について（1番目の選択、年齢別）

Q3 今後、札幌市の都市づくりを進める際に、どのようなところに力を入れていくべきだと思いますか。

地下鉄駅周辺などへの生活利便施設等の集積が求められている

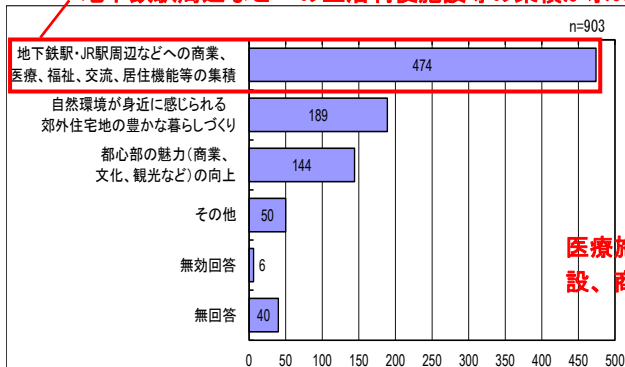


図3-1-20 今後の都市づくりで力を入れるべきところ

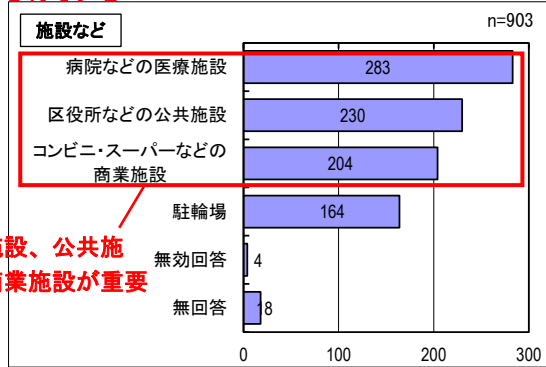


図3-1-21 地下鉄やJR駅周辺に重要な施設（施設）

Q4 地下鉄駅やJR駅の周辺に重要だと思う施設は何ですか。

自由に座れる場所、広い歩道、公園や緑地が重要

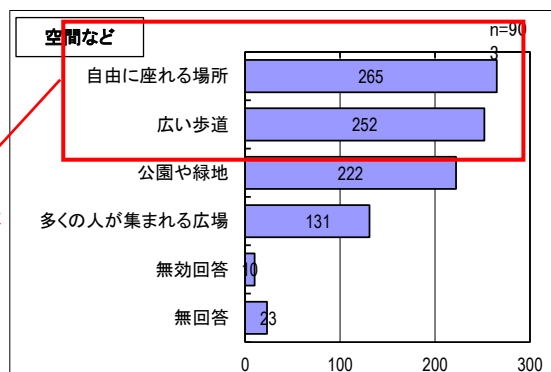


図3-1-22 地下鉄やJR駅周辺に重要な施設（空間）

【問4】 まちづくりへの参加について

Q1 今まで、市政運営に関する町内会活動を含む様々な取組やまちづくり活動へ参加したことがありますか。

Q2 住みよい地域をつくるためのまちづくり活動について、今後、参加したいと思うものは何ですか。

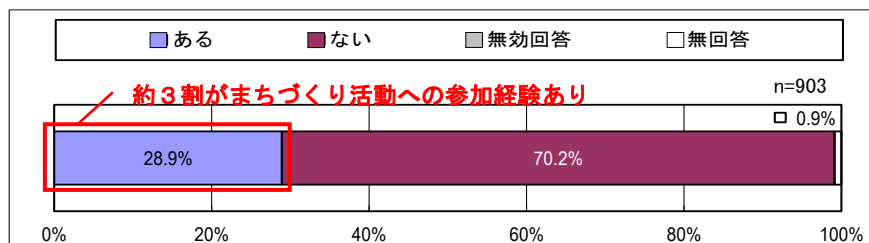


図 3-1-23 まちづくり活動への参加経験

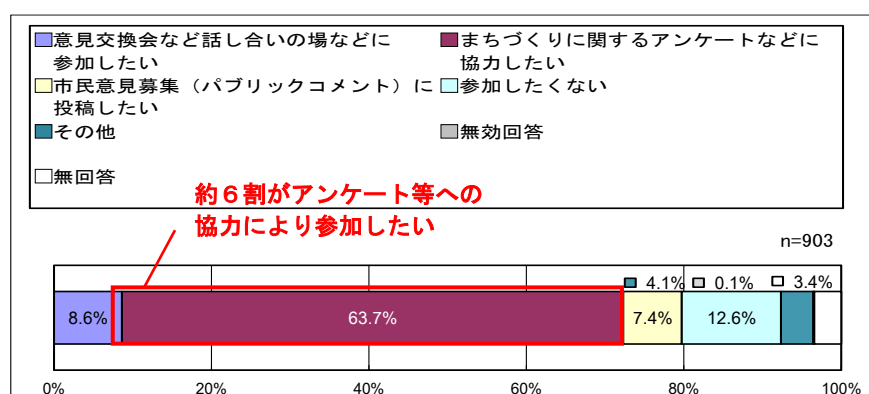


図 3-1-24 今後のまちづくり活動への参加意向

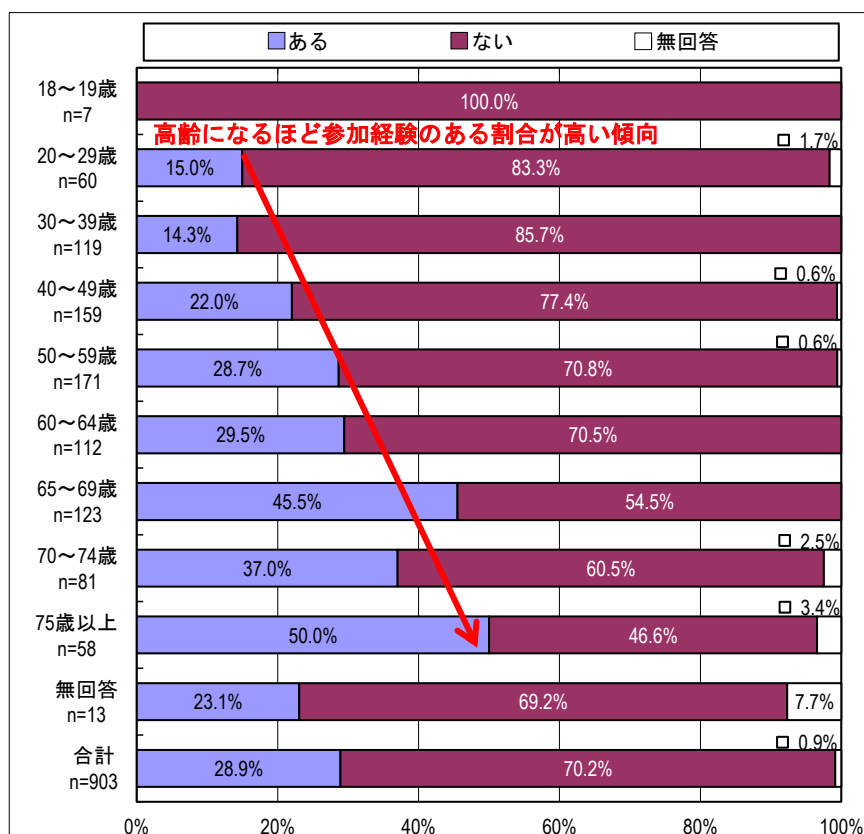


図 3-1-25 まちづくり活動への参加経験（年齢別）

3-2 子どもアンケート

札幌市都市計画マスタープラン見直しに係る市民参加事業の一環として、次世代を担う子どもの柔軟な視点や新たな発想で札幌のまちについて考え、都市づくりに対する認識を深めていただくことを目的とし、アンケート調査を実施しました。

(1) 実施概要

①実施時期

平成 26 年 10 月 15 日（水曜日）～平成 26 年 11 月 10 日（月曜日）

②調査対象

平成 26 年度に都市計画制度普及事業（ミニまち講座・まちなみ案内）を活用した小学校の児童（3～6 年生）

③回収結果

1,363 名 （回収率：95.3%）

(2) 調査結果の概要

①現在住んでいる場所について

- ・約 7 割の回答者が、現在住んでいる場所に満足し、大人になっても住み続けることを望んでいる。
- ・現在住んでいる場所に住み続けたいという回答は、郊外住宅地の回答者に多い傾向がある。
- ・約 3 割が、「現在住んでいる場所に住み続けたくない」という回答であり、「住んでいる場所が好きではない」という理由のほか、「いろいろなところに住んでみたい」、「親から離れて暮らしてみたい」などの理由があげられる。

②今後住みたい場所

- ・自然が身近にある静かな住宅地（郊外住宅地）での居住意向が高くみられる。
- ・地下鉄駅周辺などの利便性の良い地域に住む回答者は、利便性の高い場所への居住意向が比較的高くなっている。

③今後のまちづくり

- ・「災害に強いまち」が最も望まれており、続いて、「環境に優しいエコなまち」、「まちの景色が美しいまち」が望まれている。

(3) 調査結果

Q1. あなたは、何年生ですか。

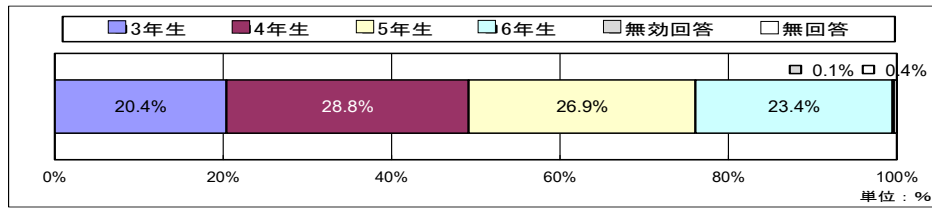


図3-2-1 学年

Q2. あなたの性別を教えてください。

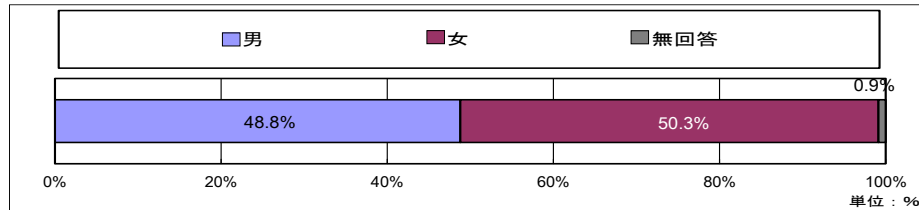


図3-2-2 性別

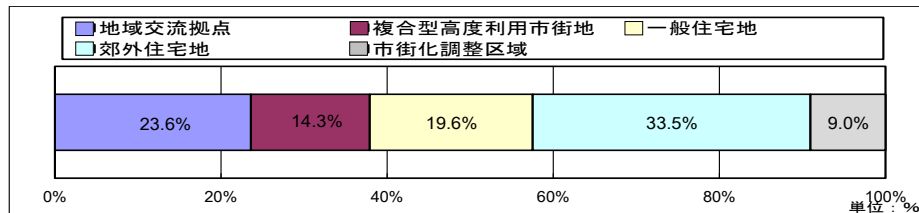


図3-2-3 市街地区分

Q3. 大人になっても今住んでいる場所に住み続けたいですか。

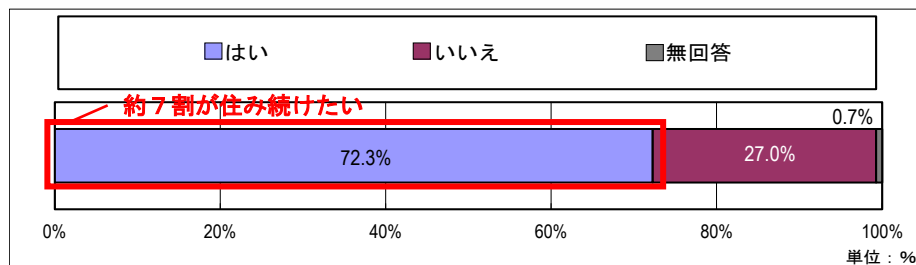


図3-2-4 大人になっても今住んでいる場所に住み続けたいか

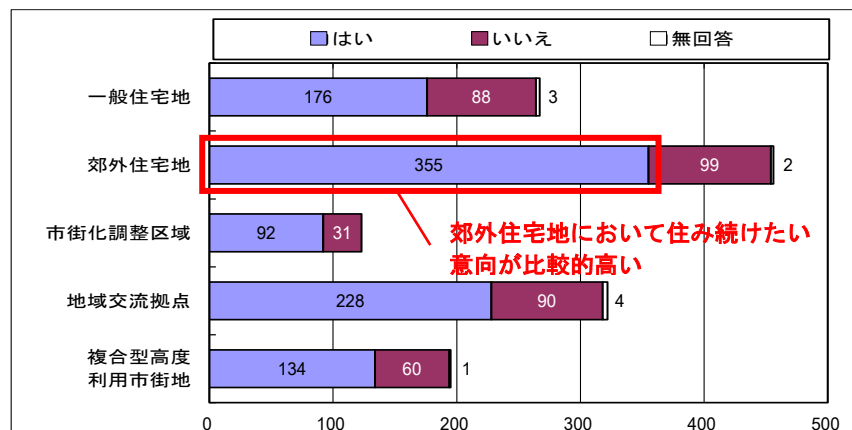


図3-2-5 大人になっても今住んでいる場所に住み続けたいか（市街地区別）

Q4. 住み続けたいと思う理由はなんですか。

Q5. 住み続けたいと思わない理由はなんですか。

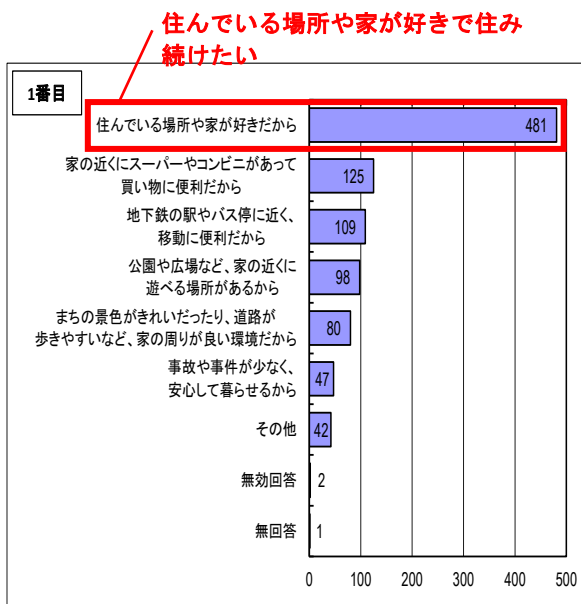


図 3-2-6 住み続け

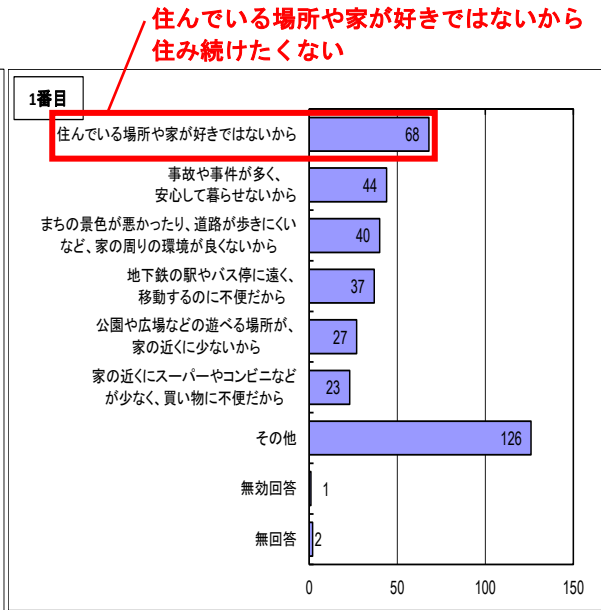


図 3-2-7 住み続けたくない理由

Q6. あなたが大人になったときに住みたいと思う場所は、次のうちどれですか。

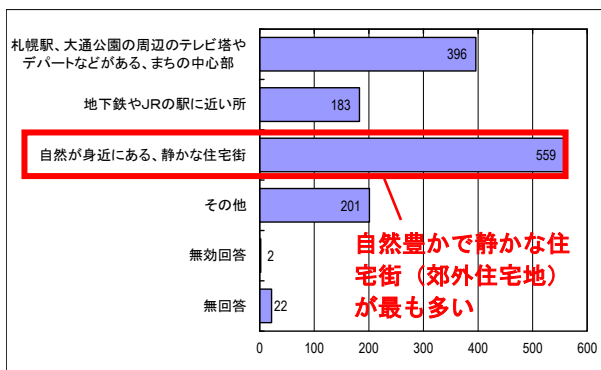


図 3-2-8 大人になった時に住みたい場所

自然豊かで静かな住宅街（郊外住宅地）が最も多い
拠点等の比較的利便性のよい地域では、半数程度が利便性のよいところでの居住を望む傾向

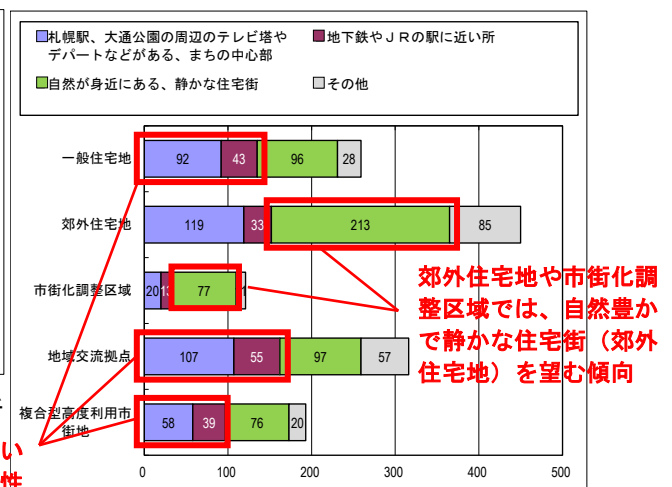


図 3-2-9 大人になった時に住みたい場所（市街地区別）

郊外住宅地や市街化調整区域では、自然豊かで静かな住宅街（郊外住宅地）を望む傾向

Q7. これからの札幌市が、どのようなまちになってほしいと思いますか。

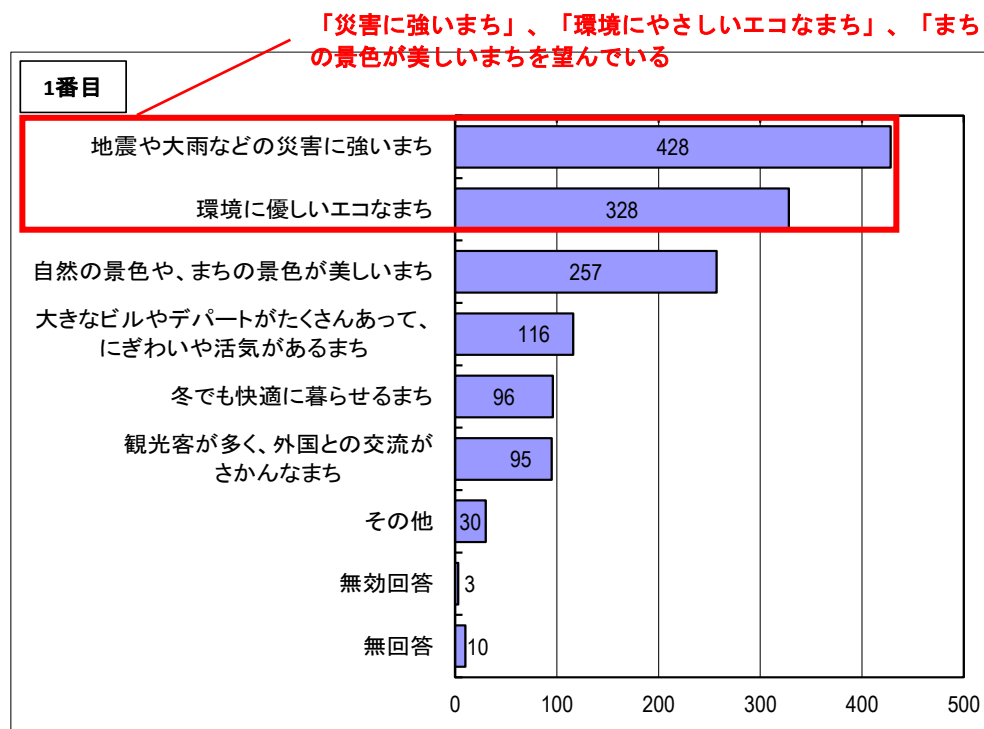


図 3－2－10 これからの札幌市のまちのあり方

3-3 まちづくりワークショップ（第1回）

札幌市都市計画マスタープラン見直しに係る市民参加事業の一環として、これからの都市づくりの方針や取組の方向性について、ワークショップ形式で検討し、**得られた**市民の意見や提案を、見直しの**方向性を検討するに当たっての**参考としました。

（1）実施概要

①日時・場所

平成26年12月6日（土曜日） 10時～12時
札幌市民ホール 第1・2会議室

②参加者

28名

※**市民アンケート**に回答された方（**903名**）のうち、ワークショップへの参加を希望した70名の方の中から、性別・年齢・**居住地**のバランスを考慮して選出しました。

③実施方法

参加者を、年齢・性別・**居住地**等について偏りがないよう5つの**グループに分け**、「都心」・「地下鉄駅周辺」・「郊外住宅地」といった市街地ごとに、「良いところ」・「悪いところ」・「今後必要な取組」について意見を出し合いました。

開催に当たっては、都市づくりに関する情報提供として、ワークショップの前段でオリエンテーションを行ったほか、開催3日前の12月3日（水曜日）には、参加予定者を対象とした事前勉強会を開催しました。

＜ワークショップの流れ＞



都市の現状と課題を説明



グループ討議



グループの討議結果発表

(2) 結果概要

市街地の種類	強み・長所	弱み・短所	意見の概要（今後必要なこと）
都心	○多様な機能が集積しており、暮らしやすい ○イベントが楽しめる ○食や芸術・文化が充実している ○大通公園に緑が多く、季節によって景観が変化する	○スーパーが少ない ○高齢者や障がい者も使える多目的トイレが少ない ○交通量が多いため、渋滞が発生している ○パチンコ店の立地や量販店の看板等により、景観が損なわれている場所がある	多様な機能とイベント等により、多くの人が集まる場所という強みがあることから、市民だけではなく、観光客にとっても魅力的な場所となるよう、大通公園の緑化による季節感の演出・市民意見を取り入れた景観づくりなど、魅力ある都心空間を創出するための取組が必要。 また、高齢者や障がい者のまち歩きを支えるため、エレベーターや多目的トイレをより多く設置すべき。
地下鉄駅周辺	○交通利便性・生活利便性が高く、暮らしやすい	○地域によってにぎわいや生活利便性、暮らしやすさの評価が異なる	全般的に利便性の高さが強みだが、駅によっては周辺のにぎわいや生活利便性の評価が低いところがある。そのため、地域の実情に配慮した上で各機能を配置する必要がある。 また、駐車場の整備・地下鉄駅からの巡回バスの運行等により郊外住宅地とのアクセス強化を図るなど 交通利便性の更なる向上を図る取組が必要。
郊外住宅地	○周辺の自然やみどりが豊か ○公園が充実している ○大型店舗が近隣にあれば、買い物が便利 ○都心と郊外を繋ぐ自転車道が便利	○空き地・空き家が増えたことにより、景観が損なわれている所がある ○バスの便数が少ないなど、交通利便性が低い ○買い物できる店舗が近隣に無いなど、生活利便性の低い地域がある ○マイカーへの依存度が高く、冬は渋滞が発生する	空き地・空き家が増加していることや、交通利便性及び生活利便性の低い地域が一部みられることが弱みとして挙げられたことから、空き家の有効活用に係る取組や、バス便数の増加といった公共交通の充実による交通利便性向上のための取組が必要。 また、他の市街地区分と比較して高齢化が進む地域も多いことから、車を使わなくても暮らせる環境の整備、高齢者が冬でも快適に歩ける環境の整備が必要。
共通	○自然に恵まれ、北海道の中心都市として芸術・文化など様々な機能が充実している ○計画的に整備されたまちなみが特徴的である	○身近な交流の場や 気軽に休憩できるスペースが少ない ○高齢者に配慮した設備の不足や冬季の路面状況から、高齢者の外出に課題がある	地域の交流の場や、休憩スペースの少なさが弱みとして挙げられたことから、地域の人材・施設など、地域資源を活用した多世代交流空間の創出や、使いやすい休憩スペースの整備が必要。 さらに、今後の少子高齢化を見据え、保育所・託児所等の子育て支援機能の配置、冬季における歩行空間の改善、車がなくても暮らせる環境の整備が必要。 環境に配慮した取組としては、カーシェアリングや公共交通の利用促進、公共施設・交通機関の低炭素化などがあげられる。 また、歩いて暮らせる環境、車に頼らない暮らしを実現するためには、市民の価値観・生活スタイルを見直すことも重要な要素である。

3-4 子ども議会

子ども議会は、子ども自身が「札幌のまちづくり」について考えることで、市政への参加と理解を進めるとともに、「子どもの権利条約」や「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」にある「意見を表明する権利」を体現する場として、平成 13 年度から開催しています。

平成 26 年度は、「誰もが快適に暮らしやすいまちにするためには、どんなところにどんなものがあればいいか考えよう」という共通テーマについて子ども議員で議論し、市長等と今後の都市づくりなどについて意見交換しました。

(1) 実施概要

①子ども議会委員会活動

平成 26 年 9 月 20 日から、計 7 回の活動を行いました。

<平成 26 年度に設置した委員会>

委員会名 (委員会の基本テーマ)	個別テーマ	共通テーマに対するサブテーマ
No more いじめ委員会 (子ども)	いじめの相談場所について	郊外住宅地について
Let's! 防犯委員会 (安全・安心・まちづくり)	地域が協力して 子どもを守るまち について	都心部について
さっぽろ×tree planting 委員会 (環境)	札幌の緑化について	郊外住宅地
熱烈観光 ～北の大地～ 委員会 (観光・文化)	外国人観光客を増やすことについて	都心部について
札幌市の農業このままで委員会 (産業・交通)	札幌の農業について	地下鉄駅周辺部について

<委員会活動のようす>



②子ども議会本会議

平成 27 年 1 月 8 日 13 時～16 時
市議会議場（市役所 17 階）



(2) 提案の概要

委員会名	サブ テーマ	提案概要	効 果
No more いじめ 委員会	郊外 住宅地	郊外住宅地では、人口が減ると空き地が増えてしまうため、空き地を、子ども達が球技のできる場とし、冬は雪捨て場としても利用できるように有効活用することを提案	○子どもが球技をできるようになる。 ○幼い子どもやお年寄りも、今ある公園をより安心して利用できる。 ○遊具が雪によって壊れることもなくなる。 ○郊外住宅地に住む人が、快適にすごせるようになる。
Let's! 防犯 委員会	都心部	都心部の屋内・屋外にイベントスペースを増やすことを提案	○屋内に、昔遊びや茶道・華道などの伝統文化を体験することができるイベントスペースを設置することで、子どもや外国人観光客が高齢者との交流の中で、普段ふれることのできない事を体験でき、高齢者の外出機会も増え、生きがい生まれる。 ○屋外では、公園を利用して、植木鉢を個人や団体に設置し花を育てることで、公園の景観向上、CO₂削減につながる。冬に雪を利用した運動会を行えば、市民の健康増進や交流の機会が増えるなどの効果が期待できる。 ○屋内・屋外両方のイベントスペースを利用して、スタンプラリーなどを行えば、公共交通機関の利用促進も望める。 ○都心部の魅力が向上する。
さっぽろ × tree planting 委員会	郊外 住宅地	空き家や空き地を集会、イベント目的で使い、生活利便施設とバスでつなげて、循環させることを提案	○郊外住宅地は、空き地や空き家が増えたことによる防犯上の問題や、近所の小型スーパーの減少などの課題を抱えている。 ○地域住民が循環バスを利用すれば、生活がより便利になり、知り合いが増え、生活に張り合いが出てくる。 ○循環バスを導入することによって、地域で協力できる体制づくりのものができる。 ○安否確認や地域の情報を共有することができる。
熱烈観光 ～北の大地 ～委員会	都心部	都心部に保育園やスーパー、市民交流施設などを一つの建物に集めた複合施設をつくることを提案	○主要な施設を一つの建物にまとめると、維持管理が楽になる。 ○都心部に保育園があると、保護者が仕事からまっすぐ迎えに行くことができ、子どもの具合が悪くなったときも、すぐ駆けつけることができる。 ○同じ建物にスーパーがあると、子どもの迎えと共に夕飯の材料など買い物済ませることができて便利。 ○市民交流施設もあれば、保護者同士の情報交換の場となり、子育ての不安を解消することもできる。 ○複合化することで、より暮らしやすいまちになる。
札幌市の 農業 このまま で委員会	地下鉄駅 周辺部	各駅に魅力あるテーマを設け、そのテーマに沿ったまちづくりを行うことを提案	○地下鉄駅周辺部には、利用したいと思う建物や公園などが少なく、魅力が少ない。 ○例えば、「農業」をテーマとした駅をつくると、その駅周辺に農家の直売所や農家との交流施設ができ、その施設を利用しようと、郊外や札幌市以外の人地下などに乗って訪れる機会が増える。 ○地下鉄を利用しない人も集まるようになり、にぎわいが生まれる。 ○駅周辺が活性化され、多くの人にとって住みよいまちになる。

3-5 これからの都市づくりを考えるパネル展

第2次札幌市都市計画マスタープランの骨子案及び札幌市立地適正化計画の考え方について、概要を紹介するパネル展を開催し、札幌市のこれからの都市づくりについて市民に広く知っていただくとともに、考えていただく機会としました。

また、見学に来た市民の方々から意見を集め、都市計画マスタープラン及び立地適性化計画の素案作成に当たっての参考としました。

(1) 実施概要

①開催期間・会場

平成27年7月22日～8月9日の期間中、各会場3日間（市役所のみ4日間）

会 場	開 催 日	職員の立会日時
中央区役所	7月22日（水）～24日（金）	22日（水）10時～12時
南区役所	7月22日（水）～24日（金）	22日（水）10時～12時
東区民センター	7月23日（木）～25日（土）	24日（金）10時～12時
白石区民センター	7月23日（木）～25日（土）	24日（金）10時～12時
北区役所	7月27日（月）～29日（水）	28日（火）10時～12時
西区役所	7月27日（月）～29日（水）	28日（火）10時～12時
市役所ロビー	7月27日（月）～30日（木）	全日 9時～17時
豊平区役所	7月28日（火）～30日（木）	29日（水）10時～12時
清田区役所	7月28日（火）～30日（木）	29日（水）10時～12時
手稲区役所	8月4日（火）～6日（木）	4日（火）10時～12時
厚別区民センター	8月7日（金）～9日（日）	7日（金）14時～16時

②市民などへの周知

- ・広報さっぽろ7月号に開催案内を掲載しました。
- ・公式ホームページに、パネル展の開催案内及び展示パネル資料を掲載しました。

③実施方法

展示会場に意見記入用紙を設置し、パネルを見た感想や都市づくりに対する考えなど、市民の方々の意見を記載していただきました。

また、市役所ロビーでは期間中常時、各区役所等においても特定の日時に職員が立ち会うことにより、市民からの質問等に応じました。

④実施結果

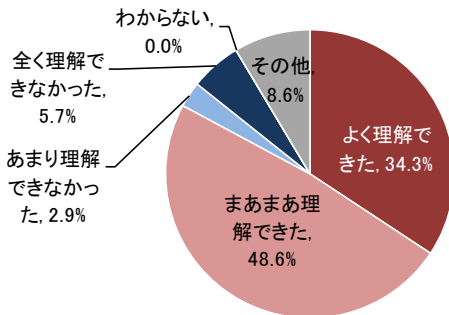
- ・市役所ロビー来場者数：207 名
- ・意見募集用紙の回収数：35 枚



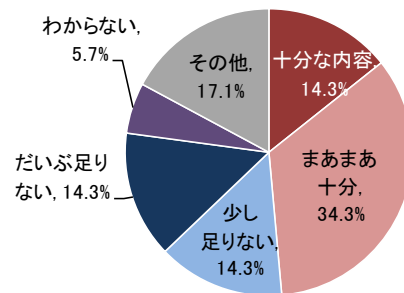
(2) パネルに対する主な意見

①都市計画マスタープラン

【Q1 内容を理解できたか】



【Q2 十分な内容であったか】

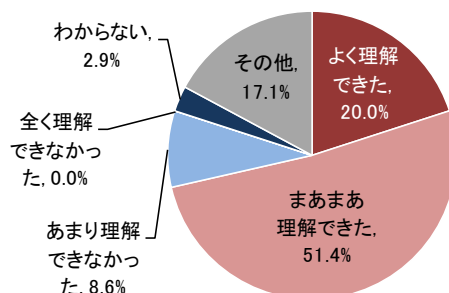


【Q3 足りないと思う内容】

- ・現在残されている緑・自然環境の保全のみならず、積極的に失われたものを取り戻す施策が必要。
- ・具体的な内容が必要。例えば、セカンドハウス制度など。都心にマンションを購入し、郊外に戸建を購入しやすい制度をつくり、若い時は都心拠点地区で働き週末は郊外で過ごす。定年後は郊外で暮らす。高齢期は都心や拠点のマンション生活、このようなライフプランを安い住宅（中古など）で実現できるような政策。
- ・①外部（札幌市以外）との連携、②丘珠空港の利用・活用、③飛地（過去の計画による）や災害危険地（山崩など）の解消。
- ・水素ステーション建設の誘致など。下水道の熱利用に加え、工場などの排熱を利用できないか。
- ・環境（自然）を最大限に生かすために、イギリスのように都市の交通制限、自転車の利用を増加させるための道路整備。

②立地適正化計画

【Q1 内容を理解できたか】



【Q2 感想や意見】

- ・持続可能な居住環境形成エリアと公共交通ネットワークの関係性が、これからの札幌市の都市運営で重要なポイントの1つであると思うので、持続可能な居住環境形成エリアについては、公共交通のサービス水準的なことを市民に示す必要がある。
- ・コンパクトシティ化は、人口密度を上げるため、自宅近くに駐車して車を利用すると車の交通量（密度）を増やす。そのため、コンパクトシティ化を進める際はこれまで以上の車利用抑制政策が必要。交通安全のために重要。

- ・札幌のみが、北海道で生き残る可能性が大きいと思う。北海道の中における中心の視点があってもよい。
- ・各施設と合わせて居住区からのアクセスのしやすさ。特に冬季期間の交通渋滞緩和の対策なども各部局連携し、もっと住みやすい街づくりをめざして欲しい。
- ・医療、福祉などの施設を集合させ、熱循環を行える地域を作ってはどうか。
- ・限られた予算の中でよく考えられた計画だと思う。しかし、車を使わず、住みかえもできなければ、あまり成果があがらないかもしれない。地下鉄の各路線の枝の部分をつなぎ、交通機関の利便性を高める必要もあるのではないかな。

③全体に対する自由意見

- ・緑あふれる、そして冬も夏も自然を身近に楽しめる都市を目指してほしい。
- ・今まであるもの（箱もの等）を利用したまちづくりは大変理解できた。これからのまちづくり、そして若い方々・子供たちが新しいまちづくりをしていくために、具体的な計画や夢をもてる考え方を示すことができるならば、もっとよい札幌市になると思う。
- ・「自転車を利用しやすい環境に改善」について。これまで自転車に関しては、駐輪場の整備が行われてきており、素晴らしいと思うが、残るは都市部の駐輪環境だと思う。自転車の通行環境はどこを走ってよいかわからず（歩道はダメ、車道は無理）、本計画の自転車の環境改善はぜひお願いしたい。「みどりのネットワーク」は自転車も走れる箇所が多いので、このようなネットワークも取り込んで、自転車ネットワークを考えていただきたい。
- ・札幌は、札幌のみではなく「北海道を考えてみた」視点も必要。特に、ロシアとの関係における札幌、冬の省エネ、中心地の新ビルおよび新築建物（マンション）における減 CO₂ の建築仕様の条例化などを考えてもよいのではないかな。
- ・公共交通を利用する人に対してバランスの良いまちづくりをしてほしい。地区の特性が薄まっている気がするので、特色を出していく方がよい。

(3) 展示パネル(抜粋)

5 これからの都市づくり 総合的取組

新しい「札幌市都市計画マスタープラン」の理念、目指す都市の姿を実現するため、例えばこんなことを行っていきます。

1 経済成長と環境にやさしい都市の実現を先導する都心

- ・国内・海外の企業の拠点となるレベルの高いビジネス環境にしていきたい。
- ・観光客がたぐいさん訪れ、多くの国際会議や展示会が行われる魅力のある都市環境を充実していきたい。
- ・歩きやすい環境や住む・働く環境を整え、みんなが楽しくにぎやかなまちをつくり、快適な都心にしていきます。
- ・環境に配慮した建物や高い自立性を備えたエネルギーネットワークの整備により、環境にやさしく、災害にも強い都心にしていきます。
- ・都心の発展を支えるまちづくりの体制をつくります。

2 様々な交流を行う環境が整った地下鉄駅周辺などの拠点

- ・拠点の特徴を活かし、地域の状況に合わせて施設等の誘導や地区の開発などを行います。
- ・周辺地域と拠点間の移動しやすい環境や、冬でも快適に歩ける環境づくりを進めます。
- ・広場など、様々な交流を行うための場をつくっていきます。

3 様々な暮らし方ができる魅力ある市街地

- ・地下鉄沿線などでは共同住宅などの住まいやすさや環境を整え、多くの人が住みやすい市街地にしていきます。
- ・路面電車の沿線などの魅力を高めるために、景観まちづくりを進めます。

4 自然環境を守りながら魅力高める市街地の外

- ・森林や農地などの環境を守り、充実させます。
- ・高次機能交流拠点の機能を魅力を高めるため、景観にも配慮した周辺の土地利用のあり方を考えます。

5 自然環境を守りながら魅力高める市街地の外

- ・森林や農地などの環境を守り、充実させます。
- ・高次機能交流拠点の機能を魅力を高めるため、景観にも配慮した周辺の土地利用のあり方を考えます。

6 地域の特徴にあった暮らしやすい環境が整った住宅地

- ・小学校にいろいろなサービス機能を集めて地域の交流や生活の拠点づくりに進め、地域コミュニティを活性化させます。
- ・身近な場所に店舗などが立ちし、暮らしやすい環境を維持していきます。
- ・地域が持つ資源などを活かして地域の魅力を高めます。

6 立地適正化計画

札幌市では、これから人口が減り、高齢者が多くなっていきます。その中でも、誰もが暮らしやすいまちにしていけるための取組として、「立地適正化計画」をつくります。

立地適正化計画って何？

まち全体を見て、住宅や医療・福祉・商業・行政等の施設をより利用しやすい場所に誘導し、公共交通をより使いやすくするための方法を記載した計画です。

安心して快適に暮らせるまちを、将来もずっと維持していくため、これからのまちの姿を見直していく必要がある。

キーワードは、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」

立地適正化計画のイメージ

この計画で対象とする区域

居住誘導区域

居住を誘導する区域

区域外で住宅などを建てる場合には、設計出が必要となる場合がある。

都市機能誘導区域

医療、福祉、商業、行政等の生活に必要な施設を誘導する区域

居住誘導区域（集合型の居住機能が集積する区域）

- 中心部（地下鉄駅周辺などの交通利便性の高い地域）は、人口密度を維持、または高めるため、土地を十分に活用し、集合住宅などが多くなるように「居住誘導区域」とすることを考えます。

なぜ、中心部（地下鉄駅周辺などの交通利便性の高い地域）を「居住誘導区域」とするのですか？

- ・中心部は住む場所としての需要が高まっています。
- ・地下鉄駅周辺などで人口が減少すると、現在建っている店舗や食料などの施設が過剰になり、周辺の広い範囲の住民の生活が不便になっていくおそれがあります。そのため、人口密度を維持、または高める取組が必要となる地域があります。
- ・中心部が十分に活用されていない土地などもあるため、集合住宅などを増やすことができる可能性がります。

（仮称）居住ストック活用区域

※札幌市独自の区域

- 郊外部の住宅地は、「（仮称）居住ストック活用区域」とすることを考えます。郊外も大事にするんだね。
- 生活や交通の利便性を確保しながら、地域のつながりを強くし、住宅地の魅力を高める取組を進めます。

札幌市の区域設定のイメージ

都市機能誘導区域（都市機能を集約する区域）

- 都心、地域交流拠点（地下鉄駅周辺など）の2つの「都市機能誘導区域」を考えます。また、誘導する施設は、下記のように考えます。

都心：広域競争力を高める施設（コンベンションセンター、高級ホテル・オフィス等）、省エネ省エネルギー施設（地域熱供給システム等）、教育文化施設、多くの市民が利用する公共施設（図書館、体育館等）

地域交流拠点：多くの市民が利用する公共施設（図書館、体育館等）

3-6 まちづくりワークショップ（第2回）

第2次札幌市都市計画マスタープラン及び札幌市立地適性化計画の素案作成に活用することを目的とし、都市計画マスタープランの骨子案及び立地適正化計画の考え方に対し、市民の視点から、将来の札幌にとって重要だと思う内容や不足していると思う内容などについて意見をいただきました。

（1）実施概要

①開催日時・会場

日時：平成27年8月2日（日） 10時～12時

会場：札幌市民ホール 第1・2会議室

②参加者

16名

※平成26年12月に開催したまちづくりワークショップ（第1回）の参加者（28名）に参加を依頼しました。

③実施方法

前回のグループ構成を基本に、年齢・性別・居住地等の属性の偏りが少なくなるよう調整し、4グループに分けて実施しました。

札幌市より、都市計画マスタープランの見直し骨子案及び立地適正化計画の考え方について説明した上で、これらの内容に対してエリアごと（都心・拠点・市街地・住宅地・市街地の外）に、「重要だと思う内容」、「足りないと思う内容」、「必要だと思う具体的な取組」について意見交換し、結果を発表しました。

＜ワークショップのようす＞



(2) 主な意見

対象 エリア	①重要だと思 う点	②不足していると思う点	③必要だと思う具体的な取組
都 心	骨子等で示されている内容は全て重要	○人口減少社会への歯止めを意識した都心づくり ○観光客等の受け入れ環境の整備 ○安全・安心な都市づくり ○公共交通の利便性向上 ○都心の駐車場整備 ○自転車の利用環境の改善 ○景観・環境への配慮	○雇用促進に向けた規制緩和等の検討 ○防災性の向上（大規模な避難場所の確保） ○駅周辺への利便施設の集積 ○空きビル・空き地・空き室の有効活用（駐車場の充実など） ○バリアフリーの推進 ○休憩スペースの創出 ○公共交通の利便性向上（バス乗り場などターミナル機能の集約化、空港へのアクセスの確保） ○景観や環境に関するルール化の推進(条例制定) ○観光客等の受け入れ環境の整備（手荷物預かり所の整備、安価な宿泊場所の整備）
拠 点	施設の誘導や移動しやすい環境づくり	○観光客等の受け入れ環境の整備 ○集客施設へのアクセス性の向上 ○不足している施設の整備 ○冬でも快適に移動できる環境づくり ○公共交通の利便性向上	○駅周辺への利便施設の集積（保育所、ちあふる、役所関係やまちセンの拡充） ○防犯性の向上（夜道の安全性確保） ○バリアフリーの推進 ○公共交通の利便性向上（コミュニティバス等の運用、バスの待合空間の整備） ○自転車ネットワークや利用ルールの整備 ○観光客等の受け入れ環境の整備（地下鉄駅周辺の宿泊場所の整備）
市街地	人口減少に対応した市街地形成	○交流空間の創出 ○空き地・空き家の活用 ○集合住宅の老朽化への対応	○再開発がしやすい環境の整備 ○空き地の有効活用 ○エネルギー施策の推進（エネルギーを自給自足できるシステムの検討）
住宅地	小学校を中心としたまちづくり	○不足している施設の整備 ○子育て環境の充実 ○交流空間の創出 ○空き室・空き家の活用 ○市民農園・菜園等の整備促進	○子育てに対する支援 ○住宅の住み替えシステムの検討 ○空き家対策 ○防犯性の向上（街灯の増設やパトロールの強化） ○高齢者向けの施設の充実 ○農業体験等の教育の充実 ○エネルギー施策の推進（家電買換えやLED化による省電力のアピール）
市街地の外	自然環境の保全と魅力づくり	○公共交通の利便性向上 ○隣接する自治体との連携による環境整備	○困った時（急病、災害時等）の連絡体制づくり
共 通		○安全・安心な都市づくり ○子育て環境の充実 ○観光客への市民対応の向上	

3-6 パブリックコメント・キッズコメント

(1) 意見募集期間

平成28年(2016年)1月12日(火)から2月10日(水)までの30日間

(2) 意見提出方法

郵送、FAX、Eメール、ホームページ上の意見募集フォーム、持参

(3) 資料の配布・閲覧場所

- ・ 札幌市役所本庁舎(1階ロビー、2階市政刊行物コーナー・都市局建築指導部管理課、5階市民まちづくり局都市計画部都市計画課)
- ・ 各区役所(市民部総務企画課広聴係)
- ・ 各区民センター
- ・ 各まちづくりセンター
- ・ 札幌市内各小中学校【小・中学生向け意見募集冊子】
- ・ 札幌市ホームページ

(4) パブリックコメント(大人の意見)の内訳

①意見提出者数・意見件数

18人・79件

②年代別内訳

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明	合計
人数	0	2	0	4	0	3	8	1	18

③提出方法別内訳

提出方法	持参	HP	郵送	Eメール	FAX	不明	合計
人数	1	7	8	2	0	0	18

④意見内訳

分類	件数	構成比
1 目的と位置付け	6	7.6%
2 これまでの都市づくり	1	1.3%
3 都市づくりの理念、基本目標等	21	26.6%
4 総合的な取組の方向性	5	6.3%
5 部門別の取組の方向性(全体)	1	1.3%
5-1 土地利用	11	13.9%
5-2 交通	8	10.1%
5-3 エネルギー	6	7.6%
5-4 みどり	2	2.5%
5-5 各種都市施設	7	8.9%
6 取組を支える仕組み	2	2.5%
全体	9	11.4%
合計	79	100%

※本計画の構成に沿って分類しています。

※構成比の算出は四捨五入しているため、合計値とその内訳の累計値とは一致しない場合があります。

(5) 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
1	P2	1 目的と位置付け 1-1 目的と背景	「都市づくり」と「まちづくり」は、ジャンルや場面によっては分離しづらい部分も出てくるので、厳密に表現を区別することが難しい。	ご意見のとおり、「都市づくり」と「まちづくり」の使い分けが難しい場面はありますが、本計画においては、P2に記載した定義により使い分けています。
2	P4	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	本計画を作成した意図と内容を分かりやすく述べて、市民が考えてみようと思う、わかりやすいものにしてほしい。 戦略ビジョンと本計画の関係が分かりにくく、札幌市の都市計画は、何を重視しているのか理解できない。 次回には、市民が理解できて、意見をいいたいような内容にしてほしい。	ご意見のとおり、内容を分かりやすくすることは重要であり、今後策定する計画等においても、わかりやすい表現等に留意していきます。 なお、本計画においては、都市づくりの基本目標をP28～29に掲げ、この実現に向けて取組を進めていきます。
3	P4～5	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	近郊の小樽市(港)、石狩市(新港)、北広島市、千歳市(空港)、苫小牧市(港)などのアクセスやネットワークを重視したモデルだが、以降の記述ではこの点にはまったく触れていない。	都市づくり全体に係る考え方として、P28では、基本目標の一つに「道内をはじめ国内外とつながり」と記載しています。 また、交通に係る部門別の取組の方向性においては、P82に空港や港湾など広域的な交通ネットワークについて記載しています。 なお、ご意見を踏まえ、P6に道内連携などについての記述を追加しました。 【修正前】 (記載なし) 【修正後】 <u>(5) 北海道や道内市町村等との連携</u> 本計画の取組の中には、札幌市単独ではなく、北海道や道内市町村、さらには道内民間企業と連携する、すなわち道内連携を行うことにより、高い成果や実効性が確保されるものがあります。 これを踏まえ、様々な分野において、北海道や道内市町村との互恵的な関係を築くなど、道内連携を深めながら取り組んでいくことを基本とします。
4	P6	1 目的と位置付け 1-3 計画の前提	20年後の札幌の人口が182～188万人と想定していることに驚いた。 若い人達を充分惹きつける魅力を持った都市でなので、人口の増加は可能と思う。 第一に重要なことは「雇用」であり、産業の育成、企業の誘致などの努力が必要。	P6に記載している将来人口のうち188万人については、平成42年に合計特殊出生率が1.5に上昇した場合の平成47年の人口であり、今後人口減少は避けられないものと認識しています。 また、ご意見のとおり、これからの都市づくりにおいて、雇用の創出は重要であることから、本計画では、P26の重視すべき観点で「産業の振興」について盛り込んでいるほか、特に都心においては、新たな企業環境、多様なワークスタイルを支える就業環境の強化を図ることとしています。
5	P10	1 目的と位置付け 1-4 計画の構成	JR白石駅周辺を交通拠点とし、地下鉄白石駅からJR白石駅までを複合型高度利用市街地とする。交通便利性の向上や区役所の出張機能の併設により、白石区のバランスのとれた発展を図る。	P66の記述にあるように、地域交流拠点以外のJR駅周辺においては、その他の拠点として、交通結節性や基盤整備状況などの地区特性に応じて生活関連機能等の立地に対応することとしています。 なお、JR白石駅周辺は、駅の橋上化や駅前広場の整備等により、利便性が向上したところですが、周辺の土地利用の現況やこれまでの動向などを総合的に勘案し、これまでと同様、複合型高度利用市街地には位置付けておりません。 ご意見は、今後の取組に当たっての参考とさせていただきます。
6	P10	1 目的と位置付け 1-4 計画の構成	札幌らしいライフスタイルを一般的な表現ではなく、具体的な事例を記述すべき。	P34～46において、それぞれの市街地区分ごとに将来像を示しています。 今後、地域単位の取組を進める中で、具体的な内容を検討していく考えです。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
7	P14	2 これまでの都市づくり	過去の「都市づくり」を単に振り返って叙述するだけではなく、本計画策定にあたって参考とした材料やヒントを紹介してはいかか。	本計画の策定に当たっては、過去の都市づくりを理解することは重要と考え整理していますが、個別具体的な事例よりも全体的な流れを把握することを主眼としています。
8	P20～24	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	述べられた課題がどのように解決するのがわかりにくい。 p21に交通環境の変化として高齢者のことも含む課題があげられているが、その解決策は述べられていない。 p77には公共交通ネットワークの基本方針の項があるが、高齢者のための交通のあり方には触れていない。 p20以降の課題のところに、解決策はp〇〇以降参照というように、課題と提案をリンクさせるようにすべき。	3～5章の内容は、課題への対応のほか、前計画の考え方を踏襲し、上位計画の考え方や、重視すべき観点などを踏まえて整理したものです。
9	P20	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	「子育て家庭の世帯構成の変化」の課題で、保育所の整備をはじめとした子育て支援の充実と記載しているが、「待機児童の早期解消」などと具体的に記述してはいかか。	ご意見を踏まえ、P20の記述に追加しました。 【修正前】 働きながら子育てできる環境整備を推進するため、保育所の整備をはじめとした子育て支援の充実が求められています。 【修正後】 働きながら子育てできる環境整備を推進するため、 <u>待機児童の早期解消に向けた保育所の整備など</u> 子育て支援の充実が求められています。
10	P21	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	東日本大震災があったから再生可能エネルギーの導入が進んだとあるが、市民の再認識をもっと啓発すべき。	ご意見のとおり、再生可能エネルギーの普及拡大に向けては、市民の理解を深めることが重要と考えており、今後とも、各種パンフレットや出前講座などの機会を通じて、市民に対する普及啓発を行っていきます。
11	P21	3 都市づくりの理念、基本目標 3-1 都市を取り巻く状況の変化とその課題	都市政策の成功例としてポートランド市が挙げられるが、徒歩や自転車で移動できるコンパクトな市街地が基礎となっている。 「自転車の利用環境の改善を図ります。」とあるが、本格的に自転車政策に取組む姿勢が明記されていない。 札幌を「日本No.1の自転車のまち」へと導いてほしい。 ＜類似意見1件＞	自転車は、健康的で環境に優しい移動手段ですが、一方で札幌は積雪寒冷地であることから、公共交通・自動車・自転車などが各々の役割を踏まえて交通体系を維持していく必要があります。 自転車利用者や歩行者が安全に安心して道路空間を利用できるよう、地域特性などを踏まえ、駐輪場の整備や走行空間の確保を進めていきます。
12	P25	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	冬期間の積雪寒冷を利用した様々の取組の記述がみられるが、「夏期の冷涼さを利用した取組み」についての記述が見られないため、この点も考慮すべき。	ご意見のとおり、夏の爽やかですぐしやすいところは札幌の特徴の一つであると考えますので、今後の取組に当たっての参考とさせていただきます。
13	P25	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	魅力ある街並みを創出するため、「歴史的建造物の指定と保全・活用」が重要ではないか。 既存の建物を歴史的観点からとらえ活用し、都市の効率的な維持・管理を実現しながら都市の文化的魅力も高めることができる。	歴史的建造物は、その地域の貴重な資源の一つであることから、これを生かしたまちづくりについて地域とともに取り組んで行くことが重要であると認識しています。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
14	P25～26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	「景観美」についての言及が少ない。 “札幌固有の”景観をつくる以前に全市の景観の底上げをしてグローバルスタンダードの達成をめざすべき。 都心部の景観を今日のレベルまで向上させたことは評価できるが、居住地域の景観は貧しく、「都心部の景観美を居住地域まで拡大していく」ことを目標に据えるのはマスタープランの使命ではないか。 「世界を惹きつける「都心の」まちづくりを・・・」を「世界を惹きつける街づくりを・・・」とすることを提案する。	ご意見のとおり、まち全体の景観に配慮した取組を進めることが重要だと認識していますので、ご意見を踏まえ、P25の記述を一部修正しました。 【修正前】 <u>札幌の特徴である都市と豊かな自然環境の共存や積雪寒冷の特性を踏まえた空間形成とともに、札幌固有の景観形成や道都として世界をひきつける都心のまちづくりが重要です。</u> 【修正後】 <u>札幌の特徴である都市と自然の近接性や、積雪寒冷の特性を踏まえた空間形成に加え、食や観光といった世界に誇れる強みを生かした道都にふさわしいまちづくりを進めることが重要です。</u>
15	P26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	「高齢者の増加に伴う都市づくり」の項目を起こすべき。 高齢人口の増加に伴い、車を持たない高齢者が歩いていける所に公共施設（介護支援施設）や商店、交流の場がある、そういうまちづくりが必要との項を入れる。	P26の重視すべき観点の一つである「地域特性に応じたコミュニティの活力を高める北国らしい都市づくり」は、ご意見のような考え方を含んでいます。
16	P26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	高層マンションの建設により、既存住宅がマンションに囲まれている状況が見られる。 商店街に商業機能をもたないマンションが建ち並び、商店街の密度の低下や景観の悪化が起きている。 各地区の実情に合わせた高度地区の見直しや、商店街の連続性や景観の保護が必要である。	全市的な視点により、建物用途を規制する用途地域や建物の高さを規制する高度地区などの土地利用計画制度を運用していますが、ご指摘のとおり、今後とも地域の実情や意向に応じて、地区計画などのきめ細かな土地利用ルールの設定を検討していきます。
17	P26	3 都市づくりの理念、基本目標 3-2 重視すべき観点	「エネルギー効率の良い低炭素型の都市構造」とあるが、市街地に雪堆積場が少なく、郊外に雪を運ぶためのエネルギーとコストが無駄になっているため、小規模でも良いので街区公園並の配置基準で雪堆積場を確保することを義務付けてほしい。	本市では、地域の雪は可能な限り地域で処理するという考えのもと、雪置き場を確保するため、公園などの公共用地の雪置き場利用を推進しています。ご意見は、今後の取組に当たっての参考とさせていただきます。
18	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	S・M・I・L・Es City Sapporoなるキャッチフレーズを見て我がまちの街づくりの理念がわかる市民はいるのか。 名詞と形容詞が混在しており、英語として統一性がない。公的な文書にことば遊び風なものは相応しいとは思えない。 理念は英語の頭文字をやめて、誰にでもわかる日本語で表現することを提案する。 英語にするのであれば、少なくとも品詞を名詞ないしは形容詞に統一すべき。 <類似意見3件>	本計画の都市づくりの理念は、戦略ビジョンに定めている都市空間創造に当たってのコンセプト「S・L・I・M City Sapporo」に、これからの都市づくりの要素である「Economy（経済）」、「Environment（環境）」といった「E」を加え、誰もが笑顔で過ごせるまちにするという願いを込めて定めたものです。 なお、ご意見を踏まえ、記述を一部修正しました。 【修正前】 「Managing」 「Livable」 【修正後】 「Management」 「Livability」
19	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	「S・M・I・L・Es City Sapporo」の最後の要素「Es」が少々強引に思う。 単語を特定せずに「～など」とするのはよくわからないし、市民が共通の理解をすべきものである基本理念としては失当。	「環境」や「雇用」など、3章に記載している都市を取り巻く状況の変化や重視すべき観点などを踏まえ、これからの都市に求められる要素を「Es」として整理しています。 なお、ご意見を踏まえ、記述を一部修正しました。 【修正前】 など 【修正後】 (削除)

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
20	P27	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	基本理念の「Es」に「electronic（電子的な）」も含まれるか。	No.20に記載した札幌市の考え方のとおり、「Es」に含まれる単語は記載しているものに限られるので、「electronic」は想定していません。
21	P28	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	低炭素都市の説明が分かりづらい。 ＜類似意見1件＞	P26に「低炭素型の都市づくり」と記載していることから、この言葉の解説を追加しました。 【修正前】 (記載なし) 【修正後】 <u>※低炭素型の都市づくり：地球温暖化の原因とされているCO2などの排出量を最小化した都市づくりを進めること。</u>
22	P29	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	間口の全てを車両の出入口にして、道路除雪の雪を道路に置けなくしている共同住宅が多いので、建築の際に、雪堆積スペースの確保を義務付けるとともに、車両や人の出入口の幅を間口の3分の1以下に制限するべき。	本市では、可能な限り敷地内で雪を処理するよう啓発を行っています。また、道路除雪の際にかき分けて玄関、車庫前に残った雪の処理は、市民の皆様をお願いしています。ご意見は、今後の取組に当たっての参考とさせていただきます。
23	P30～31	3 都市づくりの理念、基本目標 3-3 都市づくりの理念、基本目標	都市空間像と取組の進め方がどのようにして計画されたものかわからない。考え方、進め方はどこからきたものなのか。	ご意見を踏まえ、P27に記述を追加しました。 【修正前】 (記載なし) 【修正後】 <u>この節では、前計画の理念「持続可能なコンパクト・シティへの再構築」を踏襲しつつ、都市を取り巻く課題への対応や、戦略ビジョンの都市空間創造に当たってのコンセプトである「S・L・I・M City Sapporo」をさらに進め、今後重視すべき観点を踏まえたものを、これからの都市づくりの新たな理念として定めます。同様の考え方、基本目標やその実現のための考え方についても定めます。</u>
24	P36	4 総合的な取組の方向性 4-1 魅力があらわれ世界をひきつける都心	「札幌駅周辺地区」を薄紫の地味な配色とし、低迷している「大通地区」を赤色の目立つ配色をして、「駅前通周辺地区」よりも大きく表示しているが、伸びしろのある駅前通周辺地区の成長に力を注ぐべき。	ゾーンの大きさは、各地区の大きさをおおよそ反映しており、色は単に各地区を区別するため、まちづくりの進展や期待度を表現しているものではありません。都心においては、それぞれゾーンごとの特性に応じたまちづくりを展開し、それらが連鎖・連携することで、都心全体の発展につなげていきたいと考えています。
25	P39～43	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	「地域交流拠点」方式は、札幌市内の過疎化を生み出すのではないかと。	地域交流拠点は、多くの人が利用する都市機能を集積させることが重要と考えており、それが後背の住宅地における利便性の向上にもつながるものと認識しています。
26	P39	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	平岸は地域交流拠点としているが、広大な敷地を確保できる「豊平駐屯地」跡地も地域交流拠点とし、豊平区役所を移転してはどうか。	地域交流拠点は、上位計画である戦略ビジョンに位置付けられたものであり、交通結節性や都市機能の集積度合いなど、札幌市全体のバランスを考慮して、本計画においても同様に位置付けています。
27	P41～42	4 総合的な取組の方向性 4-2 多様な交流を支える地域交流拠点	先行的に取り組む地域交流拠点なぜ4箇所にしたのか説明するべき。	P41に記載のとおり、戦略ビジョンに具体的に取り組む拠点として位置付けられているため、本計画においても、先行的に取り組むべき拠点として位置付けています。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
29	P51～106	5 部門別の取組の方向性	【特に重視すべき観点】の各項目が、少々抽象的な表現が多く、工夫が必要。 【基本方針】の書きぶりが、全体的な統一性にやや欠ける点が気になる。	P51以降の【特に重視すべき観点】は、P26に記載している【重視すべき観点】のうち、特に重要なものを抜粋して記載しています。 また、【基本方針】は、部門ごとに取り組む内容が異なるため、具体性など表現に違いがあります。
30	P52	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	市街化調整区域は、建築を伴わないものは規制されていないため、「建築しない」といいながら違法に建築し、結果的に無秩序に開発されてしまう例が後を絶たない。 民間の市街化調整区域の現状変更行為は、森林が農地にする場合に限定するべき。	市街化調整区域においては、原則的に建築行為は規制されており、許可を受けず建築行為を行った者に対しては、建築物の除却を指導する等の対応を行い、適正な土地利用を目指しています。 なお、市街化調整区域に限らず、建築を伴わない行為であっても、行為の種別や規模などにより緑化の義務が生じる場合があります。
31	P52～55	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	人口減少に対応し、持続可能なコンパクトシティを目指していくためには、市街地の縮小を明確に宣言した「まち(都市)づくり」の考え方に転換すべきと考える。	札幌市では、今後人口が減少していくものの、20年後の人口密度は現在と比較して約1.5人/haの減であり、それほど大きな変化は見られません。 したがって、現状の市街地を維持していく考えを基本として、さまざまな取組を進めて行くこととしています。
32	P61～64	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	真駒内地区は高齢者が多く、若い世代が真駒内に住みたいと思ってもらえるような魅力的なまちづくりが重要。 ・人が行きかう駅周辺に商業施設があれば、住んでいる人も助かる事が多い。 ・緑の多い良いまちなので、魅力あるまち、便利で活気あるまちになれば願っている。	「真駒内駅前地区まちづくり指針」の実現に向けた将来的な駅前地区の土地利用の再編にあたっては、生活利便機能や滞留・交流空間等の充実のため、民間活力の導入の可能性等を検討していきます。
33	P65	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	モエし沼公園、さとらんど周辺ではなく、「滝野すずらん丘陵公園」こそ、高次機能交流拠点ではないか。	高次機能交流拠点は、上位計画である戦略ビジョンにおいて、特徴的な機能が備わっている場所を位置付けており、本計画においても同様に位置付けています。
34	P69	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	「モータリゼーションの進展」は「車社会化の進展」又は「自動車の普及」では駄目なのか。 高齢者はカタカナ言葉は直ぐに理解できない。 「地域のニーズ」「コージェネレーションシステム」「チ・カ・ホ」など多用されているので、日本語に置き換えるべき。	できるだけ分かりやすい表現になるよう努めていますが、愛称などを含めた固有名詞や広く一般的にカタカナで使用されている言葉については、そのまま使用している場合があります。 なお、ご意見を踏まえ、記述を一部修正するとともに、カタカナのまま使用している言葉については、一部注釈を追加しました。 【修正前】 P36 ストック 【修正後】 P36 資源・資産
35	P69	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	大型店の郊外出で、地域の小売店が撤退している。こうした動きに拍車をかけるので反対。	郊外における大型の集客施設については、身近な生活利便施設の確保という観点から、一定規模以上の施設の立地を制限しています。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
36	P71	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	「市街化調整区域においては、良好な自然環境（森林等）や優良な農地の保全を前提」とあるが、「良好」「優良」とは具体的に何か。 放置されず適切に管理するための仕組みが必要だが、見解を示してほしい。	「良好な自然環境」とは、荒廃することなく適切に保全され、野生生物の生息・生育環境であるとともに、市民に潤いや安らぎをもたらすなど都市景観や市民生活の向上に資する森林等の状況を指します。これらのみどりを適切に管理するためには、P97～98に記載された取組など、民有林の公有化による保全・活用などみどりを守り育てる制度の運用のほか各種法令による規制などが重要と考えています。 「優良な農地」とは、集団的農用地や各種農業投資が実施されている生産性の高い農地を指します。これらを保全するため、P97～98に記載のとおり、農業振興地域の整備に関する法律に基づく農用地区域の指定や、新規就農者をはじめ多様な農業の担い手を育成・確保するなどの各種農業施策の実施が重要と考えています。
37	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	高次機能交流拠点周辺の魅力向上は、新たな自然環境破壊の口実に使われる危険性がある。 新たな自然環境の破壊は必要ないので禁止する。 既存施設の跡地等の活用を図るべき。	高次機能交流拠点周辺の魅力向上にあたっては、周辺を含めた自然環境の保全を前提とし、地域特性を踏まえて景観にも配慮した限定的な土地利用の許容について検討していきます。
38	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	過去の航空機墜落事故を教訓にして、将来の丘珠空港移転計画を盛り込むべき。	丘珠空港については、周辺の生活環境に配慮し、地域との共存を図りつつ、航空ネットワークの充実や利便性向上を目指すこととしています。
39	P71～73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	市街化調整区域指定で地権者の土地利用に制限を課す施策は、公平・公正でなければならない。 丘珠空港周辺や航空路直下を市街化調整区域に長期間指定し続けているため、これを是正する計画を盛り込むべき。	本市では、都市計画法に基づき、市街化を抑制すべき区域を市街化調整区域に指定しています。 今後は人口が減少していく見込みであることから、市街化区域の拡大は、原則行わないこととしています。
40	P73	5 部門別の取組の方向性 5-1 土地利用	「優良な農地との健全な調和」で、市民農園の活用の記述があるが、大規模な駐車場の造成と資材庫の乱立に伴い農地面積を減らす市民農園も優良な農地の扱いなのか。	市民農園は、農家の高齢化・担い手不足等を背景に増大している荒廃農地の解消・予防策として、農地の有効な活用方法のひとつであり、優良な農地との調和を図る施設と考えています。また、市民農園整備促進法に基づき開設された市民農園は、規模に応じた適正な駐車場や農具庫の設置が義務付けられており、いたずらに農地面積を減らすことにつながるものではないと考えています。
41	P74	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	市職員は自家用車通勤をやめ、公共交通を積極的に利用するべき。	職員の勤務形態などが異なるため、自家用車による通勤を一律にやめることは難しいと考えますが、職員は、通勤時に限らず、公共交通機関を積極的に利用するよう努めています。
42	P77～78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	高齢者にやさしい公共交通として、郊外と中心部をつなぐ考え方はよい。 今後財政的にも負担が多すぎるので、地下鉄以外の方策を検討すべき。 可能なかぎり市電延長で考える。市電はもっとも高齢者にやさしく、かつ排気ガスも出さず、今後、中心部を走る交通機関としてふさわしい。 バスで補充しながら市電の拡充を基本に、予算その他の問題を考えながら、50年先を見通した計画をたてるのが重要。	現在、市電の延伸検討については、「都心地域」、「桑園地域」、「創成川以東地域」を対象としています。 今後は、ループ化による整備効果を十分に検証し、路線拡充による交通面、まちづくり面、経営などに与える影響も踏まえながら、必要な調査をしていきます。
43	P77～78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	公共交通ネットワークの活用策として、乗継の利便性向上のため各交通機関（地下鉄、電車、バス、JR列車）の乗車券、定期券等の共通カード化の早期実現を図ることが必要。	平成21年1月に地下鉄で導入したICカード 乗車券SAPICAにつきましては、平成25年6月にバス3社及び路面電車にも導入するとともに、KitacaやSuicaなど主な他社ICカードでもご利用いただけるようにしたところです。現在は、Kitacaの利用エリアにおいてSAPICAがご利用可能となるよう、JR北海道との協議を継続しています。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
44	P78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	地下鉄の機能向上の前に、将来的にどのように維持・改修していくのかを考えるべき。	地下鉄の維持・改修については、高架駅の改修工事などを計画的に進めているところであり、今後も調査・検討を行い、効率的に修繕を行いながら延命していきます。 なお、ご意見を踏まえ、P78の記述に追加しました。 【修正前】 その機能向上や活用について検討 【修正後】 その機能の維持・向上や活用について検討
45	P78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	「公共交通ネットワークの活用」に「地下鉄の延伸も視野に入れた」という文言を追加してはどうか。 人口減少により、予算面が今後厳しくなっていくため、延伸について早期の決断が求められる。 延伸を検討する路線は、丘珠空港と札幌ドームへのアクセス向上が期待できる東豊線が挙げられる。	地下鉄の延伸については、将来の人口減少や高齢化の進行、建設事業費が多額であることなどから慎重に判断しなければならない状況です。清田区方面への地下鉄の延伸については、冬季オリンピック・パラリンピックの招致動向を踏まえ、沿線地域の土地利用が変わっていくことが見込まれる場合などには、今後、必要な検討を行っていきます。
46	P78	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	20年後は、団塊の世代も80才を超え、車を持っている人は皆無に近く、マイカーの数も減少すると思われる。 マイカーの市内乗り入れを少なくするため、通勤時に地下鉄、バスの始発駅近くにマイカーを駐車できるスペースを確保し、公共交通機関を利用する方策を検討してほしい。	一部の地下鉄駅近傍に「パークアンドライド駐車場」を確保しており、ご意見については、今後の取組に当たっての参考とさせていただきます。
47	P82	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	都心と高速道路間のアクセス強化の早期実現を目指すため、具体的な目標年次を明示し、積極的に取り組む姿勢を強調すべき。 札幌都市圏の道路の機能強化にも貢献する。	都心と高速道路間のアクセス強化は、札幌都市圏の交通ネットワーク強化に資するものであり、新幹線と連携した広域交通ネットワークを形成するためにも、平成42年度末予定の北海道新幹線の札幌開業を見据え、国とも連携しながら検討を進めていきたいと考えています。
48	P83	5 部門別の取組の方向性 5-2 交通	地域の実情やニーズに対応した交通のあり方として、フリーな乗降が可能な地域循環バスの運行等、地域の足として移動の利便性を高めるための施策導入について記述すべき。	地域のさまざまな移動ニーズに対応するために、効率的で持続可能な交通手段の様々な可能性について検討し、誰もが使いやすい公共交通となるよう努めていきます。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
49	P85	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	エネルギー使用の効率化のために、省エネ技術のようなソフト面にもフォーカスをあて、「エネルギー効率を上げるためにお金をかけて投資する」という方針を持つことが重要。そこで、P85（１）【これまでの取組】に、ソフト面（省エネ技術）に関する内容を追記してはどうか。	ご意見のとおり、札幌市では、ソフト・ハードの両面からエネルギーの効率的な利用を進めることが重要と考えており、エネルギーマネジメントシステムの導入支援や、施設の運用改善による省エネ技術の普及などを行っています。 ご意見を踏まえ、P85、86の記述を一部修正しました。 【修正前】 とりわけ東日本大震災以降、電力の自給システムへの注目が高まっていることから、寒冷地対応の家庭用燃料電池（エネファーム）の登場は、太陽光発電とともに、今後さらに導入が拡大し、低炭素型の都市づくりへ貢献することが期待されています。 【修正後】 とりわけ東日本大震災以降、電力の自給システムへの注目が高まっていることから、寒冷地対応の家庭用燃料電池（エネファーム）の登場は、 <u>エネルギーマネジメントシステム</u> や太陽光発電とともに、今後さらに導入が拡大し、低炭素型の都市づくりへ貢献することが期待されています。
50	P86	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	P86【基本方針】の記載を、「環境配慮型建物の普及をはじめとしたハード面やエネルギー効率の高い設備の運用方法をはじめとしたソフト面による低炭素化を推進します。」と変更してはどうか。	【修正前】 とりわけ東日本大震災以降、電力の自給システムへの注目が高まっていることから、寒冷地対応の家庭用燃料電池（エネファーム）の登場は、 <u>エネルギーマネジメントシステム</u> や太陽光発電とともに、今後さらに導入が拡大し、低炭素型の都市づくりへ貢献することが期待されています。 【修正前】 環境配慮型建物の普及をはじめとしたハード面の低炭素化を推進します。 【修正後】 <u>エネルギーマネジメントシステム</u> や環境配慮型建物の普及をはじめとした <u>ソフト・ハード両面</u> の低炭素化を推進します。
51	P89	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	P89【取組の方向性】ウの記載を、「…・公共施設等の建替え更新時には、効率的なエネルギー使用を目指して、コージェネレーションシステム等の設備の導入を推進するとともに、…」と変更してはどうか。	公共施設等の建替え更新に合わせたコージェネレーションシステム等の導入検討は、P88の基本方針「環境負荷の低減とともに、災害時における安定的な都市活動の継続に資する取組を推進します。」を踏まえて行うものであり、このページに記載している取組の方向性は、エネルギー効率の向上を目指すことを前提としています。
52	P91	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	下水汚泥から発生するバイオガスによる燃料ガス化エネルギー等の利用が全国的に注目されており、一部実用化されている所もあるので、この点について言及すべき。	本市の下水汚泥の処理は、バイオガスを発生させる汚泥の消化は行わずに焼却しており、その際に発生する熱を有効活用した蒸気発電により、下水汚泥のエネルギーを利用しています。
53	P91	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	蓄エネルギーシステムの併用・拡大は、スマートコミュニティの実現にとっても大きな役割を果たすことができると考える。将来的に札幌市として蓄電池や電気自動車などを用いた蓄エネルギーシステムを積極的に推進していくべき。 そこで、P91【取組の方向性】アの記載を、「…・蓄エネルギーシステムの普及・促進により、再生可能エネルギーを効率的に利用することを目指します。」と変更してはどうか。	ご意見のとおり、札幌市では、再生可能エネルギーを効率的に利用するためには、蓄エネルギーシステムと組み合わせる導入することが有効と考え、市有施設へ太陽光発電と蓄電池を組み合わせた設備の導入などを進めています。 ご意見を踏まえ、記述を一部修正しました。 【修正前】 再生可能エネルギーを効率的に利用するために、 <u>蓄エネルギーシステムとの併用・拡大</u> を図ります。 【修正後】 再生可能エネルギーの効率的な利用を目指し、 <u>蓄エネルギーシステムの普及・促進</u> を図ります。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
54	P91～92	5 部門別の取組の方向性 5-3 エネルギー	風力や太陽光発電は、低炭素社会という点では評価できるが、手放しでというわけにはいかない。 風力についてはバードストライクや低周波による健康被害問題を考慮しなければならない。 太陽光も、広い面積で行う場合には、森林伐採など自然に与える影響を考慮する必要がある。 廃棄物の処理問題も考慮する必要がある。 環境省はまだ太陽光発電器の処分方法を検討中なので、廃棄物処理も考慮して、再生可能エネルギーの活用を検討すべき。	再生可能エネルギーの活用に当たっては、環境へ与える影響等の観点も重要と考えており、いただいた意見も参考にしながら、取組を進めていきます。
55	P93	5 部門別の取組の方向性 5-4 みどり	公園緑地を再整備する際には、1～2台の小規模でよいので駐車場を設けることを義務化してほしい。	大規模公園については、通常、遠方からの公園利用者のために駐車場を設置することとしています。が、住宅地内にある身近な公園については、徒歩で行くことを前提としているため、駐車場の設置を義務化する予定はありません。
56	P93～96	5 部門別の取組の方向性 5-4 みどり	公園づくりや管理にあたって、これまで以上に地域の人々に参画してもらい、魅力あるエリアづくりに知恵と力を出してもらってはどうか。 地域の人々が公園づくりに参画することを通じて連帯感を高め地域により親しみを抱くようになり、美しい街づくり、故郷づくりにつながることを期待する。	現在、札幌市で新しく公園をつくる場合には、小さい子供から高齢者までアンケートや話し合いなどを行い、幅広い年代の意見を取り入れることにより、より多くの人が利用できる魅力ある公園づくりに取り組んでいます。 また、古くなった公園を新しくする取組も行っており、地域の方々の意見を聞きながら、様々な人たちが楽しめるような公園の改修に取り組んでいます。 今後も引き続き、公園づくりや管理にあたり、地域の方々と共に取り組んでいきます。
57	P99	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	「憩いとうるおいとやすらぎのある水辺空間」について、遠方の市民がアクセスできるよう、適宜、駐車場を設けることをマスタープラン内で定めてほしい。	札幌市には大小様々な川があることから、都市計画マスタープランでは、河川環境整備を推進する上での基本的な考え方を示しています。 駐車場などの具体的な施設の整備内容は、河川やその周辺の状況に応じて、河川ごとに検討します。
58	P99	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	「国や北海道と協議をしつつ、治水対策や河川環境整備を推進していく」旨の記述も入れるべき。	治水対策や河川環境整備を推進する上では、これまで同様、国や北海道と必要に応じて適切に協議を行い、取り組んでいます。
59	P99	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	河川に生育する生物についてはまったく不十分である。 カムバックサーモンは危機を迎えるのではないかと危惧している。 今後は災害を防ぎながらサケなどが産卵できる河川を目指さなければならないが、今回の都市計画では触れていない。	札幌市には、豊平川のような大きな川だけではなく、川のそばに住んでいる市民にしか知られていない小さな川もたくさんあります。 河川の生物生育環境は、河川ごとの状況に合わせて考える必要がありますし、魚類だけでなく昆虫や植物など多様な生物を含めて考える必要があります。 このため、生物生息環境のほか、周辺住環境など全てを包含して「周辺環境に配慮した」と表現しています。
60	P100～101	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	持続可能な水道システムの構築のためには、他の市町村や企業団との連携、統合、再編さらには事業の広域化を実現し、官民協力体制への取組を積極的に推進して、技術の継承やコストの縮減を図り、はじめて持続可能な水道システムの構築が可能となるため、このような取組の記述が必要。	札幌市の水道事業においても、道内水道事業体との連携や、官民連携について検討し取り組むことは、技術の継承やコスト縮減の観点から重要であると考えています。 このような取組については、上水道に限らず各分野の取組を支える仕組みとして、108ページの『（１）取組の内容に応じた「多様な協働」』として記載しています。

No.	該当ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
61	P100 ～101	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	札幌市の一日最大給水量に対し、当別ダムからの取水はわずか7%に過ぎないが、多額の費用を費やして当別ダムから取水（水源の分散配置）することが必要か。 水道水のヒ素の水質基準は0.01mg/Lであるが、札幌市は0.005mg/Lを目指している。近年、ほぼこの目標を達成しているのに、なぜ187億円もかけて水源水質保全事業を行うのか。また、この工事に伴い、ヒ素濃度が高い土砂が搬出される可能性もあり無駄な事業ではないか。 今後財政的にも厳しくなることが予想されているのに、このような無駄な事業（水源の分散配置、水源水質保全事業）をするのか、市議会全体で論議していただきたい。	市外に水源や浄水場を分散配置することで、豊平川への一極集中の状況が改善されるとともに、西部配水池への送水ルートが二重化が可能となります。また、企業団からの受水は、今後必要となる白川浄水場の大規模改修にも活用できることなどから、札幌市民への安全・安定給水のために重要であると考えています。 現在、札幌市の水道水のヒ素濃度は他都市と比較すると恒常的に高い状況にあり、本事業によりヒ素等の健康に影響を与える物質を抜本的に取り除くことが必要であると考えています。なお、工事で発生する土砂は、安全性を確認した上で、建設資材としてリサイクルするなど、適切な方法で処分します。 両事業の必要性については、事業の構想段階から市議会や札幌市営企業調査審議会などにおいて、継続的に論議されてきました。今後も必要に応じ事業の説明や情報提供に努めるとともに、適切な施設規模の確保・施設の延命化など引き続き効率的な事業運営に取り組み、健全経営を維持していきたいと考えています。
62	P102 ～103	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	処理場の余剰能力を有効に活用し、かつ生ごみの減量を推進するために、家庭におけるディスポーザの導入を進めてはどうか、 下水汚泥から発生するバイオガス等の量が増加し、再生可能エネルギーの利活用も期待できる。	単体ディスポーザの使用により、生ごみが下水管に堆積し、腐敗することで悪臭が発生することがあります。 また、生ごみによって汚濁物質が増加するため、水再生プラザ（下水処理場）における水処理に過剰な負担が掛かることなどから、下水道条例施行規則で、ディスポーザ排水処理システムのみ設置を許可しています。 ※「ディスポーザ」とは、台所の野菜くずなどの生ゴミを砕いて水と一緒に排水する機械のことです。「単体ディスポーザ」は、この砕かれた生ゴミ排水とその他の排水をそのまま下水道管に流してしまいます。 一方「ディスポーザ排水処理システム」は、ディスポーザからの排水を処理してから排水のみを下水道管に流すものです。
63	P104 ～105	5 部門別の取組の方向性 5-5 各種都市施設	家庭におけるディスポーザ導入により、生ごみの減量がされ、清掃工場等処理施設の負荷が軽減される。 処理施設の長寿命化と縮小・再編が可能となる。この点について記述してはどうか。	ディスポーザについては、No.69に記載した本市の考え方のように、条件によって設置できない場合があることから、本市では、広く生ごみの減量を進めていくため、どの家庭でも実践していただける食品ロスの削減や生ごみの水切りなどを重点的に取り組んでいます。
64	P108	6 取組を支える仕組み	市民意見に耳を傾ける姿勢は必要だが、都市計画の分野は達観して計画を貫くことの方を優先すべき。 都市計画は長期的視点で札幌市全体の将来を考える必要があることを重視すべきだ。	本計画は、札幌の目指すべき都市像の実現に向けた取組の方向性を全市的視点から整理したものであり、20年後を見据えながらとりまとめています。 また、市民や企業の方との協働により、取組を進めて行くことが重要と考えています。
65	P108 ～	6 取組を支える仕組み	各種都市施設の中長期にわたる更新需要、財政収支、資金確保等の資産管理の手法である「アセットマネジメントの導入」も必須ではないか。	ご意見のような考えは本市としても重要と認識しており、P26には「既存の施設や都市基盤の活用・長寿命化を図り、持続的で効率的な維持管理が行うことができる都市づくりが必要」と記載しているほか、P108には「効率的な都市経営の観点から、民間の資本やノウハウを活用した都市づくりを進めることが必要」と記載しています。 ご意見は今後の取組に当たっての参考とさせていただきます。

No.	該当 ページ	該当項目	意見の概要	札幌市の考え方
66	-	全体	本プラン全体にわたって、近隣市町村との連携・協力というキーワードが必要。 ＜類似意見1件＞	ご意見のとおり、都市づくりの取組を進めるに当たり近隣市町村と連携することは、重要なことだと認識しています。 本計画では、様々な取組の前提となる基本目標の一つに「道内をはじめ国内外とつながり」と記載しており、近隣市町村を含めた道内の各自治体との連携を図っていくこととしています。 なお、ご意見を踏まえ、より分かりやすくするためにP6に記述を追加しました。 【修正前】 (記載なし) 【修正後】 No.3参照
67	-	全体	各区の違いをもっと鮮明にし、区民、各区役所が主体性を持って考える必要がある。	本計画は、札幌の目指すべき都市像の実現に向けた取組の方向性を、全市的視点から整理したものです。 今後は、P109に記載しているとおり、地域ごとの都市づくりの指針を定めるなど、市民・企業・行政等の協働による地域の取組を推進します。
68	-	全体	もっと多くの区民に説明する機会を設け、住民がプランを立てるべき。	
69	-	全体	全体的に抽象的な美辞麗句が踊っている。もっと市民の生活に根ざした捉え方と具体的な提案が必要。・	
70	-	全体	市民参加事業に障がい者も参加させてほしい。 高齢者の意見も必要。	本計画に記載している取組を進めるに当たっては、障がい者や高齢者を含め、多くの市民に参加してもらえるよう配慮します。
71	-	全体	平成16年に前計画が策定されているが、その後の平成17年に南区豊滝に北海道初のサファリパークとしてオープンした施設もあり、どのように都市計画法やマスタープランが運用されているか疑問。	本市では、前計画策定後、市街化調整区域における土地利用の方針を策定し、運用しております。また、都市計画法や土地利用方針に基づき許可基準を定め、個々の建築行為について規制し、許可を受けず建築行為を行った者に対しては、建築物の除却を指導する等の対応を行い、適正な土地利用を目指しています。
72	-	全体	コンパクトシティに向かうのなら、地下道の拡充は必須。 地下道が充実すれば雪の心配がなくなり、結果的にコンパクト化が進む。 まずは道庁や市役所に地下道をつなげるべき。	地域の特性に応じて、誰もが安全に安心して歩行できる歩行環境の整備を検討していきます。
73	-	全体	老老介護が増えている中で、もっと身近に介護相談場所も欲しい。	介護や福祉などに関する高齢者の相談窓口として、地域包括支援センターを市内27カ所に、介護予防センターを市内53カ所に設置していますので、ご活用ください。

(6) キッズコメント（子どもの意見）の内訳

①意見提出者数・意見件数

317人・483件

②学年別内訳

学年	人数
小学5年生以下	22人
小学6年生	238人
中学1年生	34人
中学2年生	17人
中学3年生	6人
合計	317人

③意見内訳

分 類	件数	構成比
1 目的と位置付け	0	0.0%
2 これまでの都市づくり	0	0.0%
3 都市づくりの理念、基本目標等	130	26.9%
4 総合的な取組の方向性	55	11.4%
5 部門別の取組の方向性	288	59.6%
6 取組を支える仕組み	3	0.6%
その他	7	1.4%
合計	483	100%

※本計画の構成に沿って分類しています。

※構成比の算出は四捨五入しているため、合計値とその内訳の累計値とは一致しない場合があります。

(7) 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

No.	該当項目	意見の件数	意見の概要	札幌市の考え方
1	3 都市づくりの理念 3-1 状況の変化とその課題	20件	◆観光 ・人口が減っても持続可能なまちにするために、観光に力を入れることが大切 ・札幌の魅力をもっとアピールするべき ・都心だけではなく、あまり知られていないようなところにも観光名所をつくると、観光客が増えると思う	国内外の多くの人に札幌を訪れてもらうためにも、雪という特性を踏まえ、様々な地域資源を活用して札幌の魅力を向上し、発信していく考えです。
2	3 都市づくりの理念 3-1 状況の変化とその課題	15件	◆外国人観光客 ・外国人向けのホテルをつくったり、英語や中国語などの看板を設置すると思う ・外国と交流して、観光客が増えるまちになってほしい	
3	3 都市づくりの理念 3-1 状況の変化とその課題	26件	◆雪・イベント ・雪は札幌の魅力だと思うし、雪をつかったイベントをすると思う	
4	3 都市づくりの理念 3-1 状況の変化とその課題	5件	◆子育て環境 ・子どもを育てやすい環境になってほしい	働きながら子育てできる環境をつくっていくため、保育所の整備をはじめとした子育て支援の充実に向けて取り組んでいきます。
5	3 都市づくりの理念 3-1 状況の変化とその課題	1件	◆雇用 ・働ける人をできるだけ増やす	働く人が増えることは、札幌が魅力や活気あるまちであり続けるためにはとても重要です。引き続き、雇用の場を増やせるように取り組んでいきます。
6	3 都市づくりの理念 3-1 状況の変化とその課題	6件	◆財政 ・取組は優先順位を考えて、お金を大事に使ってほしい	優先度を考慮し、無駄がないよう効率的に取り組んでいきます。
7	3 都市づくりの理念 3-2 重視すべき観点	1件	◆見直しのポイント ・すごくいい考えだと思うので、未来の札幌市のためにいろいろなことを考えてほしい	見直しのポイントにあげた4点は、これから人口が減っていても元気なまちであり続けるための大事な考え方です。
8	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	11件	◆スマイルズ・シティ・サッポロ ・理念に賛成 ・言葉通りにみんなが笑顔で過ごせるまちにしてほしい ・高齢者を楽しく笑顔にさせてあげたい	札幌市民もそれ以外の来訪者も、みんなが笑顔になれるようなまちを目指して取り組んでいきます。
9	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	6件	◆世界都市 ・札幌の自然を生かして世界都市にする ・札幌は魅力があるので、国内だけでなく、世界からも人が来るようなまちにしたい ・将来にわたって世界とつながっていけるようなまちであってほしい	札幌ならではのいいところをアピールし、世界から注目されるようなまちを目指して取り組んでいきます。
10	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	4件	◆コンパクトな都市 ・これから高齢者が多くなるので、コンパクトな都市は賛成 ・住宅や生活を支える施設があり誰もが移動しやすいコンパクトな都市がいい	駅の近くにマンションやお店などがあり、地下鉄やバスが使いやすい便利な暮らしができるように取り組んでいきます。
11	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	1件	◆コンパクトな都市 ・施設をつくるのにお金がたくさん必要になってしまうので、コンパクトな都市には反対	便利な暮らしができるようなまちづくりを進めるとともに、今あるものを生かしながら、無駄がないように効率的に取り組んでいきます。

No.	該当項目	意見の件数	意見の概要	札幌市の考え方
12	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	6件	◆低炭素都市 ・低炭素都市、環境に優しいまちづくりに賛成 ・環境問題やエネルギー問題に取り組むことはよい ・札幌のためだけでなく、世界的にも大事	環境問題は札幌だけではなく、日本中、世界中の人が考えなくてはならないことです。これからは、自動車ではなく、地下鉄やバスをなるべく使うようにするなど、今まで以上に環境に配慮した暮らし方が大事です。
13	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	15件	◆安全・安心な都市 ・災害時にもエネルギーが使って活動を維持できるという事はとてもいい考え ・太陽光パネルの設置を推進し、災害がおきた時も電気を使えるようにしたい ・まちの中心部は建物が密集していて、地震などの災害が起きたらパニックになると思うので、災害に強いまちにするのが大切	大きな災害のときにも、みなさんが心配せず に安心できるまちにしていけることは、とても大事なことです。 災害が起きた時にも電気を使うことができる建物は増えつつあるので、安全・安心なまちを目指して引き続き取り組んでいきます。
14	3 都市づくりの理念 3-3 都市づくりの理念・基本目標	13件	◆建物をながく使う、建替える ・古い建物は新しくして、ながく使えるようにする ・大きな地震などがきたら倒れそうな建物は、つくりかえたい ・古くなくても大事に使っていくことが大切	これからは、環境のことも考えて、建物をできるだけ長く使えるようにしたり、地震に強くするといったことを考えていくことが重要です。
15	4 総合的な取組の方向性 4-2 地域交流拠点	12件	◆地域交流拠点の形成 ・地下鉄駅周辺に施設を建てたり、ビルを作ることはとてもいい考えだと思う ・地下鉄を降りてすぐにお店や病院がすぐ近くにあると、高齢者も便利だと思う	地下鉄駅周辺にお店や病院のような建物が集まると、とても便利です。そのような場所には人も集まるので、地域ににぎわいがうまれたり、人と人との交流にもつながります。 これからは、その実現を目指して、積極的に取り組んでいきます。
16	4 総合的な取組の方向性 4-2 地域交流拠点	17件	◆都市機能の集積 ・地下鉄駅やJR駅周辺に区役所や病院、商業施設、保育所を建てると良い ・人が集まるところに建物を集中させるのは、みんながふれ合えるという点でいい	
17	4 総合的な取組の方向性 4-3 複合型高度利用市街地	4件	◆便利な暮らし ・高齢者が増える中で便利に暮らせることはいいと思う	比較的駅に近いような便利な場所には、マンションが多く建っています。今後も、マンションをはじめ、お店や病院などの便利な建物が立地できるよう取り組んでいきます。
18	4 総合的な取組の方向性 4-3 複合型高度利用市街地	20件	◆居住誘導を進める ・地下鉄駅周辺などにマンションを建てることに賛成 ・マンションの近くに電車やバスがあれば、車に乗る人が少なくなると思う	
19	4 総合的な取組の方向性 4-5 市街地の外	2件	◆高次機能交流拠点 ・自然を守りながらその特徴を生かした土地の使い方に賛成 ・郊外の方にも高次機能交流拠点をつくった方がいい	例えば「モエリ沼公園・サッポロさとらんど周辺」という高次機能交流拠点が郊外にありますが、この周辺では、自然環境を守りながら、魅力を高めるような土地の使い方を考えていきます。
20	5 部門別の取組 5-1 土地利用	16件	◆利便施設 ・スーパーなどが身近な場所にあるといい ・郊外にもコンビニや小さなお店があるといい ・児童会館、図書館、体育館をつくってほしい	戸建住宅が多く建っているような郊外でも、小規模なお店や生活に必要な施設などが立地するなど、住みやすいまちになるように取り組んでいきます。

No.	該当項目	意見の件数	意見の概要	札幌市の考え方
21	5 部門別の取組 5-1 土地利用	42件	◆居住環境 ・高齢者や障がい者が住みやすいまちにしてほしい	身近なところに生活に必要な施設があったり、バスや地下鉄を使いやすくするなど、高齢者や障がい者にとっても住みやすいまちになるよう取り組んでいきます。
22	5 部門別の取組 5-1 土地利用	7件	◆交流空間 ・交流施設を増やしたい ・子どもからお年寄りまでの交流を増やしていくべき	地域交流拠点では、交流が生まれるような広場などをつくることで、より人が集まってくると考えています。また、小学校に児童会館を設置するなど、子どもから高齢者まで、幅広い世代の人たちが交流できるように取り組んでいきます。
23	5 部門別の取組 5-1 土地利用	5件	◆地域づくり ・身近な地域の目標をもって地域のよい取組がどんどん広がっていくことが大切 ・近所の人との交流は、いろいろと役に立つ	地域をよくするために、その地域の人たちと一緒にまちづくりを進めていくような取組を考えています。
24	5 部門別の取組 5-1 土地利用	2件	◆空き地・空き家 ・郊外の空き地は、農地にしたり、風力発電にしたらどうか ・住民が安心して暮らせるように、空き家を老人ホームにするなど活用するとい	今後、郊外の空き地・空き家は増えていくことが予想されるので、空き地・空き家を有効に使うといったことについて、様々な可能性を検討していきます。
25	5 部門別の取組 5-1 土地利用	3件	◆景観 ・マンションが建つことで、景観が悪くなったりするので考えてほしい	現在本市では、建物の高さに関するルールを定めているほか、例えば建物の色の使い方などにより、出来るだけ景観に配慮した建物が建つように取り組んでいます。
26	5 部門別の取組 5-2 交通	68件	◆交通 ・地下鉄やバスなどの交通機関を活用することが大切 ・バスなどの交通手段を増やすことで便利になり、車を使う人が減ると思う ・地下鉄の駅を増やしてほしい	地下鉄やバスなどの公共交通機関の活用は、これからのまちづくりを進めていく上で、とても大事なことです。 地下鉄をのばして駅を増やすことは、将来の利用者や費用のことを考えると慎重に判断しなければなりませんが、バス会社などとも協力して、公共交通を使いやすく便利なものになるよう取り組んでいきます。
27	5 部門別の取組 5-2 交通	14件	◆バリアフリー、ユニバーサルデザイン ・地下鉄の駅の階段にスロープをつけたり、車いすの人が乗れるようなバスにしたらよい ・高齢者でも歩きやすいような歩道にすることで、通行人が増えると思う	地下鉄の駅やその周辺の道路における段差の解消や、バスや市電のノンステップ化など、今後もバリアフリー化を進めていきます。
28	5 部門別の取組 5-3 エネルギー	31件	◆エネルギー ・環境にやさしいエネルギーを効率よく利用できる仕組みを作ったりすることは、とても大切だと思う ・太陽光や雪などの自然を使ったエネルギーを推進するとい	二酸化炭素は地球温暖化を進める温室効果ガスの1つです。 太陽光発電をはじめとする自然のエネルギーを有効活用することやみどりを増やすことなどは、大気中の温室効果ガスを減らすことにつながります。環境に配慮したまちにするために、今後も様々な取組を進めていきます。
29	5 部門別の取組 5-3 エネルギー	18件	◆環境配慮 ・みどりを増やしたり公共交通を使うようにして、二酸化炭素の排出量を減らすことが大切	
30	5 部門別の取組 5-4 みどり	58件	◆自然環境の保全・活用 ・今ある自然を大切にしたい、もっと増やしてほしい ・自然を活用して観光地を増やしたい	北国の気候に適した花や木々を使って、みどり豊かなまちづくりを進めるとともに、公園や森などでは、みんなが集い楽しみながら、花やみどりを守り育てる取組を行っています。引き続き、みどりを増やし、守り育てる取組を進めていきます。

No.	該当項目	意見の 件数	意見の概要	札幌市の考え方
31	5 部門別の取組 5-4 みどり	23件	◆公園 ・ボール遊びをできるようにするなど、子どもが安心して遊べる公園をつくってほしい ・みどりが多く散歩したくなるような公園を増やすべき	札幌市には2,700箇所以上の公園があるほか、土地の確保などの課題もあり、公園数をたくさん増やすことは難しいと考えています。市内には、大きな広場がある公園やスポーツができる公園、自然豊かな公園など、いろいろな種類や使い方ができる公園がたくさんありますので、目的に合わせてご利用ください。 このほか、新しい公園をつくるときや古くなった身近な公園を改修するときなどには、アンケートや話し合いをして、地域の状況や近くにお住まいのみなさんの意見を取り入れながら、多くの人にとって魅力のある公園づくりに取り組んでいます。
32	5 部門別の取組 5-4 みどり	1件	◆農業振興 ・土地を有効活用して農業を推進すれば、さらによりまちになると思う	農業に関わる人を支援したり、市民が農業への関心を深めることにつながるような農地の活用など、今後も様々な取組により農業を推進していきます。
33	6 取組を支える仕組み	3件	◆市民参加 ・まちづくりのために、アンケートをするといい ・たくさん子どもがまちづくりに参加できるようにするとい	本計画について考えるための参考にするためにアンケートを行い、様々な意見をもらうことができました。今後も、必要に応じてアンケートを行ったり、子どもにも参加してもらえるような取組について考えていきます。
36	その他	4件	◆計画に賛成	(原案賛成意見)
34		2件	◆オリンピック ・開催できたらうれしいし、経済の活性化にもつながると思う	平成38年の冬季オリンピック・パラリンピック開催を目指して、引き続き様々な取組を行っていきます。
35		1件	◆計画の推進 ・今年から取り組んでほしい	本計画に記載している様々な取組は、計画策定後、積極的に取り組んでいきます。